



# HPリテール インテグレートッド バーコード スキャナー

プログラミング リファレンス ガイド

© Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

Microsoft、WindowsおよびWindows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書に記載されている製品情報は、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護された所有権に関する情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、HP Inc.の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他言語へ翻訳することはできません。

プログラミングリファレンスガイド  
HPリテール インテグレートッド パー  
コード スキャナー  
初版：2013年8月  
製品番号：736671-291

# 目次

はじめに.....	1
このガイドについて.....	1
概要.....	1
マニュアルの表記規則.....	2
リファレンス.....	2
テクニカル サポート.....	2
HPのWebサイトでのサポート.....	2
再販業者によるテクニカル サポート.....	2
電話でのテクニカル サポート.....	2
スキャナーについて.....	3
スキャナーのプログラミング.....	3
設定方法.....	3
セットアップ.....	5
開梱.....	5
スキャナーのセットアップ.....	5
インターフェイスの選択.....	6
インターフェイスの設定.....	6
設定のカスタマイズ.....	7
インターフェイスの設定.....	7
グローバル インターフェイス機能.....	7
その他の機能の設定.....	7
ソフトウェアバージョンの送信.....	7
製品の設定の初期状態へのリセット.....	8
バーコードを使用した設定.....	9
設定パラメーター.....	9
グローバル インターフェイス機能.....	11
ホスト コマンド：従う/無視.....	11
USBサスペンドモード.....	11
USB-COMインターフェイス.....	13
文字間遅延.....	14
ASCII BELでのビーブ音.....	15
Not on Fileでのビーブ音.....	15
ACK/NAKオプション.....	16
ACK文字.....	17
NAK文字.....	17
ACK NAKのタイムアウト値.....	18
ACK NAKの再試行回数.....	18
ACK NAKのエラー処理.....	19
送信エラーの通知.....	19
無効化文字.....	20
有効化文字.....	20
USBキーボード設定.....	21
国モード.....	22
制御文字の送信.....	25
コード間遅延.....	26
Caps Lockの状態.....	26
USBキーボードの速度.....	27
USBキーボードのデンキー.....	28
データフォーマット.....	29
グローバル プレフィックス/サフィックス.....	30
グローバルAIM ID.....	30

GS1-128のAIM IDの個別設定 .....	33
ラベルID .....	34
個別設定ラベルID .....	34
ラベルIDの制御 .....	34
ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード .....	35
ラベルIDの読み取りコードの選択：2D読み取りコード .....	39
大文字/小文字変換 .....	40
文字変換 .....	40
読み取り時のパラメーター .....	41
二重読み取りのタイムアウト .....	42
LEDおよびビープ音によるインジケーター .....	44
電源投入時の警告 .....	44
読み取り成功：通知のタイミング .....	44
読み取り成功のビープ音の種類 .....	45
読み取り成功のビープ音の周波数 .....	45
読み取り成功のビープ音の長さ .....	46
読み取り成功のビープ音の音量 .....	47
読み取り成功のLEDの持続時間 .....	48
スキャン機能 .....	49
動作モード .....	49
スキャン有効時間 .....	49
緑色スポットの持続時間 .....	50
携帯電話モード .....	50
モバイルバイパス .....	51
照射オフ時間 .....	51
照射オン時間 .....	52
プレゼンテーションモード用照射の制御 .....	52
照準ポインター .....	53
照準の持続時間タイマー .....	53
白黒反転イメージのデコード .....	54
イメージキャプチャ .....	54
複数ラベルの読み取り .....	55
ボリューム内の複数ラベルの読み取り .....	55
フレームごとの複数ラベル .....	55
読み取りコードによる複数ラベルの順序付け .....	56
コード長による複数ラベルの順序付け .....	56
1D読み取りコード .....	57
1Dコードの選択 .....	57
すべての読み取りコードの無効化 .....	58
Code EAN/UPC .....	59
クーポンの制御 .....	59
UPC-A .....	60
UPC-Aの有効/無効 .....	60
UPC-Aのチェックキャラクタの送信 .....	60
UPC-AからEAN-13への拡張 .....	61
UPC-Aのナンバー システム キャラクタの送信 .....	61
UPC-Aの2Dコンポーネント .....	62
UPC-E .....	62
UPC-Eの有効/無効 .....	62
UPC-Eのチェックキャラクタの送信 .....	63
UPC-Eの2Dコンポーネント .....	63
UPC-EからEAN-13への拡張 .....	64
UPC-EからUPC-Aへの拡張 .....	64
UPC-Eのナンバー システム キャラクタの送信 .....	65
GTINへのフォーマット変換 .....	65
EAN 13 ( JAN 13 ) .....	66
EAN 13の有効/無効 .....	66
EAN 13のチェックキャラクタの送信 .....	66
EAN 13のフラグ1の文字 .....	67
EAN 13からISBNへの変換 .....	67
EAN-13の2Dコンポーネント .....	68
ISSN .....	68

ISSNの有効/無効.....	68
<b>EAN 8 (JAN 8) .....</b>	<b>69</b>
EAN 8の有効/無効.....	69
EAN 8のチェックキャラクタの送信.....	69
EAN 8からEAN 13への拡張.....	70
EAN 8の2Dコンポーネント.....	70
<b>UPC/EANのグローバル設定.....</b>	<b>71</b>
UPC/EANの価格とウェイトのチェック.....	71
UPC/EANのクワイエットゾーン.....	72
<b>アドオン.....</b>	<b>73</b>
オプションのアドオン.....	73
オプションのアドオンのタイマー.....	74
オプションのGS1-128アドオンのタイマー.....	77
<b>Code 39.....</b>	<b>80</b>
Code 39の有効/無効.....	80
Code 39のチェックキャラクタの計算.....	80
Code 39のチェックキャラクタの送信.....	81
Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信.....	82
Code 39 Full ASCII.....	82
Code 39のクワイエットゾーン.....	83
Code 39の長さ制御.....	83
Code 39の長さ1の設定.....	84
Code 39の長さ2の設定.....	85
<b>Code 32 (イタリアの医薬品コード) .....</b>	<b>86</b>
Code 32の有効/無効.....	86
Code 32の機能設定の例外.....	86
Code 32のチェックキャラクタの送信.....	86
Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信.....	87
<b>Code 39 CIP (フランスの医薬品) .....</b>	<b>87</b>
Code 39 CIPの有効/無効.....	87
<b>Code 39 LaPoste.....</b>	<b>88</b>
Code 39 LaPosteの有効化/無効化.....	88
<b>Code 128.....</b>	<b>88</b>
Code 128の有効/無効.....	88
Code 128からCode 39への拡張.....	89
Code 128のチェックキャラクタの送信.....	89
Code 128の機能文字の送信.....	90
Code 128のサブコード交換の送信.....	90
Code 128のクワイエットゾーン.....	91
Code 128の長さ制御.....	91
Code 128の長さ1の設定.....	92
Code 128の長さ2の設定.....	93
<b>GS1-128.....</b>	<b>94</b>
GS1-128の有効化.....	94
GS1-128の2Dコンポーネント.....	94
<b>Code ISBT 128.....</b>	<b>95</b>
ISBT 128の連結.....	95
ISBT 128の強制連結.....	95
ISBT 128の連結モード.....	96
ISBT 128の動的連結のタイムアウト.....	97
ISBT 128の高度な連結オプション.....	97
<b>Interleaved 2 of 5 (12 of 5) .....</b>	<b>98</b>
12 of 5の有効/無効.....	98
12 of 5のチェックキャラクタの計算.....	99
12 of 5のチェックキャラクタの送信.....	100
12 of 5の長さ制御.....	100
12 of 5の長さ1の設定.....	101
12 of 5の長さ2の設定.....	102
<b>Follett 2 of 5.....</b>	<b>103</b>
Follett 2 of 5の有効化/無効化.....	103
<b>Standard 2 of 5.....</b>	<b>104</b>
Standard 2 of 5の有効化/無効化.....	104

Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算 .....	104
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信 .....	105
Standard 2 of 5の長さ制御 .....	105
Standard 2 of 5の長さ1の設定 .....	106
Standard 2 of 5の長さ2の設定 .....	107
<b>Industrial 2 of 5 .....</b>	<b>108</b>
Industrial 2 of 5の有効化/無効化 .....	108
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算 .....	108
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信 .....	109
Industrial 2 of 5の長さ制御 .....	109
Industrial 2 of 5の長さ1の設定 .....	110
Industrial 2 of 5の長さ2の設定 .....	111
<b>Code IATA .....</b>	<b>112</b>
IATAの有効化/無効化 .....	112
IATAのチェックキャラクタの送信 .....	112
<b>CODABAR .....</b>	<b>113</b>
Codabarの有効化/無効化 .....	113
Codabarのチェックキャラクタの計算 .....	113
Codabarのチェックキャラクタの送信 .....	114
Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信 .....	114
Codabarのスタート/ストップキャラクタセット .....	115
Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致 .....	115
Codabarのクワイエットゾーン .....	116
Codabarの長さ制御 .....	116
Codabarの長さ1の設定 .....	117
Codabarの長さ2の設定 .....	118
<b>ABC Codabar .....</b>	<b>119</b>
ABC Codabarの有効化/無効化 .....	119
ABC Codabarの連結モード .....	119
ABC Codabarの動的連結のタイムアウト .....	120
ABC Codabarの強制連結 .....	121
<b>Code 11 .....</b>	<b>122</b>
Code 11の有効/無効 .....	122
Code 11のチェックキャラクタの計算 .....	122
Code 11のチェックキャラクタの送信 .....	123
Code 11の長さ制御 .....	123
Code 11の長さ1の設定 .....	124
Code 11の長さ2の設定 .....	125
<b>GS1 DataBar Omnidirectional .....</b>	<b>126</b>
GS1 DataBar Omnidirectionalの有効化/無効化 .....	126
GS1 DataBar OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション .....	126
GS1 DataBar Omnidirectionalの2Dコンポーネント .....	127
<b>GS1 DataBar Expanded .....</b>	<b>127</b>
GS1 DataBar Expandedの有効化/無効化 .....	127
GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション .....	128
GS1 DataBar Expandedの2Dコンポーネント .....	128
GS1 DataBar Expandedの長さ制御 .....	129
GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定 .....	130
GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定 .....	131
<b>GS1 DataBar Limited .....</b>	<b>132</b>
GS1 DataBar Limitedの有効化/無効化 .....	132
GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション .....	132
GS1 DataBar Limitedの2Dコンポーネント .....	133
<b>Code 93 .....</b>	<b>133</b>
Code 93の有効/無効 .....	133
Code 93のチェックキャラクタの計算 .....	134
Code 93のチェックキャラクタの送信 .....	134
Code 93の長さ制御 .....	135
Code 93の長さ1の設定 .....	136
Code 93の長さ2の設定 .....	137
Code 93のクワイエットゾーン .....	138
<b>MSI .....</b>	<b>138</b>

MSIの有効化/無効化.....	138
MSIのチェックキャラクタの計算.....	139
MSIのチェックキャラクタの送信.....	139
MSIの長さ制御.....	140
MSIの長さ1の設定.....	141
MSIの長さ2の設定.....	142
<b>Plessey.....</b>	<b>143</b>
Plesseyの有効化/無効化.....	143
Plesseyのチェックキャラクタの計算.....	143
Plesseyのチェックキャラクタの送信.....	144
Plesseyの長さ制御.....	144
Plesseyの長さ1の設定.....	145
Plesseyの長さ2の設定.....	146
<b>2D読み取りコード.....</b>	<b>147</b>
<b>2Dのグローバル機能.....</b>	<b>147</b>
2Dの最大デコード時間.....	148
2Dの構造的接続.....	149
2Dの通常/反転読み取りコード制御.....	149
<b>Aztecコード.....</b>	<b>150</b>
Aztec Codeの有効化/無効化.....	150
Aztec Codeの長さ制御.....	150
Aztec Codeの長さ1の設定.....	151
Aztec Codeの長さ2の設定.....	152
<b>China Sensible Code.....</b>	<b>153</b>
China Sensible Codeの有効化/無効化.....	153
China Sensible Codeの長さ制御.....	153
China Sensible Codeの長さ1の設定.....	154
China Sensible Codeの長さ2の設定.....	155
<b>Data Matrix.....</b>	<b>156</b>
Data Matrixの有効化/無効化.....	156
Data Matrixの正方形/長方形スタイル.....	156
Data Matrixの長さ制御.....	157
Data Matrixの長さ1の設定.....	157
Data Matrixの長さ2の設定.....	158
<b>Maxicode.....</b>	<b>159</b>
Maxicodeの有効化/無効化.....	159
Maxicodeのプライマリメッセージの送信.....	159
Maxicodeの長さ制御.....	160
Maxicodeの長さ1の設定.....	160
Maxicodeの長さ2の設定.....	161
<b>PDF417.....</b>	<b>162</b>
PDF417の有効化/無効化.....	162
PDF417の長さ制御.....	162
PDF417の長さ1の設定.....	163
PDF417の長さ2の設定.....	164
<b>Micro PDF417.....</b>	<b>165</b>
Micro PDF417の有効化/無効化.....	165
Micro PDF417のCode 128/GS1-128エミュレーション.....	165
Micro PDF417の長さ制御.....	166
Micro PDF417の長さ1の設定.....	166
Micro PDF417の長さ2の設定.....	167
<b>QR Code.....</b>	<b>168</b>
QR Codeの有効化/無効化.....	168
QR Codeの長さ制御.....	168
QR Codeの長さ1の設定.....	169
QR Codeの長さ2の設定.....	170
<b>Micro QRコード.....</b>	<b>171</b>
Micro QR Codeの有効化/無効化.....	171
Micro QR Codeの長さ制御.....	171
Micro QR Codeの長さ1の設定.....	172
Micro QR Codeの長さ2の設定.....	173
<b>UCC Composite.....</b>	<b>174</b>

---

UCC Compositeの有効化/無効化.....	174
UCCオプション コンポジット タイマー .....	175
郵便コードの選択 .....	176
PostnetのBB制御 .....	177
<b>リファレンス.....</b>	<b>179</b>
USB-COMのパラメーター .....	180
USBキーボードインターフェイス .....	187
コード間遅延 .....	187
読み取りコード .....	188
長さ設定 .....	188
データ編集 .....	189
グローバルプレフィックス/サフィックス.....	190
グローバルAIM ID .....	191
ラベルID .....	192
文字変換 .....	197
読み取り時のパラメーター .....	198
読み取り成功のLEDの持続時間.....	198
スキャン機能 .....	199
動作モード .....	199
スキャン有効時間 .....	199
照準の持続時間タイマー .....	200
読み取りコードによる複数ラベルの順序付け.....	201
<b>技術仕様.....</b>	<b>203</b>
LEDおよびビープ音による通知.....	207
エラーコード .....	208
<b>標準の初期設定.....</b>	<b>209</b>
<b>サンプルバーコード.....</b>	<b>219</b>
<b>テンキー .....</b>	<b>223</b>
<b>スキャンコード表.....</b>	<b>225</b>
制御文字エミュレーション .....	225
1回押して放すキー .....	225
インターフェイスの種類：USBキーボード .....	226
インターフェイスの種類：USB標準キーボード（ALTモード） .....	228
Microsoft® Windows®コードページ1252 .....	230
<b>クイックセットアップ.....</b>	<b>231</b>
OPOSドライバー .....	231
キャリッジリターン .....	232
Tab .....	233
音量 .....	234



# 第1章 はじめに

## このガイドについて

このプログラミングリファレンスガイド (PRG) は、接続、プログラミング、メンテナンス、仕様などの高度な技術情報を必要とするユーザーを対象としています。『HPリテールインテグレートッドバーコードスキャナーユーザーガイド』およびこの製品に関連するその他のマニュアルは、HPのWebサイトから無料でダウンロードできます。

## 概要

第1章（この章）では、マニュアルの表記規則、およびスキャナーとその機能や動作の概要について説明します。

第2章「セットアップ」では、スキャナーの開梱およびセットアップについて説明します。

第3章「バーコードを使用した設定」では、スキャナーをカスタマイズするための手順およびバーコードラベルについて説明します。インターフェイスの種類、一般的な機能、データフォーマット、読み取りコード固有の機能、およびモデル固有の機能に関するさまざまなセクションが含まれています。

第4章「リファレンス」では、より複雑なプログラミング項目の背景情報および詳細手順を提供します。

付録A「技術仕様」には、物理特性、パフォーマンス特性、および環境や規定に関する仕様の一覧が記載されています。また、ケーブルの標準のピン配列やLED/ビープ音の機能についても説明します。

付録B「標準の初期設定」には、スキャナーの機能およびオプションに関する一般的な工場出荷時設定が記載されています。

付録C「サンプルバーコード」には、いくつかの一般的な読み取りコードのバーコード例が記載されています。

付録D「テンキー」には、特定のパラメーター設定用にスキャンされる数字バーコードが記載されています。

付録E「スキャンコード表」には、USBキーボードインターフェイス用の制御文字エミュレーションに関する情報の一覧が記載されています。

付録F「クイックセットアップ」では、共通して必要な設定の概要について簡単に説明します。

## マニュアルの表記規則

このガイドでは、以下の表記規則を使用しています。

以下に示す記号は、スキャナーの使用時に注意する必要がある重要な問題または手順を読者に知らせるために、ガイドの中で使用されています。



「注」には、スキャナーの適切な診断、修復、および操作に必要な情報が記載されています。



注意

「注意」記号は、機器または資産が損傷する可能性のある動作についてユーザーに注意を促します。

## リファレンス

このプログラミング リファレンス ガイド (PRG)、ユーザー ガイド、[HP RPOS Integrated Scanner Configuration]アプリケーションの最新バージョン、およびこの製品の他のすべてのマニュアル、手順シート、およびユーティリティは、以下に記載したHPのサポートWebサイトからダウンロードできます。また、印刷版のマニュアルおよび製品サポートCDは、ほとんどの製品について、HP認定の再販業者またはサービス プロバイダーから購入できます。

## テクニカル サポート

### HPのWebサイトでのサポート

HPのサポートWebサイト、<http://www.hp.com/jp/> は、HP製品のすべてのテクニカル サポートおよび技術情報の入手元です。このサイトは、製品サポート、製品登録、保証に関する情報、製品マニュアル、製品の技術ノート、ソフトウェア更新プログラム、デモ、および修理のために製品を送り返す手順を提供します。

### 再販業者によるテクニカル サポート

HP認定の再販業者は、優れた技術的支援や情報を提供します。再販業者は、特定の種類の業務、アプリケーション ソフトウェア、およびコンピューター システムに精通し、個別的な支援を提供できます。

### 電話でのテクニカル サポート

インターネットや電子メールでアクセスできない場合は、HP製のリテールPOSコンピューターに記載の電話番号を使用し、HPのテクニカル サポートまでお問い合わせください。

## スキャナーについて

本体は通常、最も一般的な端末および通信の設定に合わせて工場出荷時にプログラムされています。設定された機能を変更する必要がある場合は、このガイドに記載されているプログラミングバーコードをスキャンして、カスタム設定を行うことができます。

このガイドは、HP製のバーコードスキャナーを対象としています。

別の方法として、スキャナーに付属のCDからインストールできるHPの設定アプリケーションを使用してプログラミングを実行することもできます。このマルチプラットフォームのユーティリティプログラムでは、PCを使用してデバイスの設定を行えます。USBポートを使用して接続先のデバイスと通信し、設定用バーコードを作成して印刷することもできます。

イメージベースのスキャナーで使用されているLEDテクノロジーの進展によって、対象となる照射領域の照明が大幅に改善されたため、スキャンの効率が向上しました。デバイスが初期設定で「自動トリガー オブジェクト検知」読み取りモードになっていることや回転の調整が柔軟に行えることに加え、人間工学に基づいたスキャナーの設計により、長時間利用しているときのリテール業務の効率が向上します。

## スキャナーのプログラミング

### 設定方法

#### プログラミングバーコード

スキャナーには、一連の標準的な初期設定機能が工場出荷時に設定されています。インターフェイス用バーコードをスキャンしたら（必要に応じて、ホストのインターフェイスの種類を変更する場合）、その他のオプションを選択し、お使いのインターフェイスに対応する機能のセクションで入手できる手順およびプログラミングバーコードラベルを使用してスキャナーをカスタマイズできます。さまざまな機能のカスタマイズ可能な設定については、9ページからの「バーコードを使用した設定」を参照してください。

一部のプログラミングラベル（8ページの「カスタム初期設定の復元」など）では、1つのラベルをスキャンするだけで変更が完了します。しかしほとんどのバーコードでは、スキャンする前にスキャナーをプログラミングモードにする必要があります。プログラミングモードを開始するには、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードを1回スキャンします。スキャナーがプログラミングモードになったら、いくつかのパラメーター設定をスキャンして、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。これで変更が確定され、プログラミングモードが終了して、スキャナーが通常の動作に戻ります。



上記の一般的なプログラミング手順には例外がいくつかあります。あらかじめ設定された各機能を変更する場合は、機能の説明および設定手順をよくお読みください。

#### HPの設定ソフトウェア

[HP Configurator]はマルチプラットフォームのユーティリティプログラムであり、USB-COMインターフェイス経由の迅速でわかりやすい設定方法が用意されています。このソフトウェアは、製品に付属のCD-ROMに含まれているほか、Webサイトからもダウンロードできます。このソフトウェアでは、PCで動作するわかりやすいグラフィカルインターフェイスから設定コマンドを選択することで、スキャナーを設定できます。

---

これらのコマンドはUSBホスト インターフェイスを介してスキャナーに送信されます。または、スキャンされるバーコードとして印刷することもできます。

このユーティリティでは、接続されているデバイスを対象にソフトウェア アップグレードを実行することもできます。

## 第2章 セットアップ

### 開梱

購入したスキャナーおよびオプション製品がすべて揃っていて、損傷がないことをよく確認します。配送中に何らかの損傷が発生した場合は、HPのテクニカル サポートにお問い合わせください。2ページに情報が記載されています。

梱包材を保管しておいてください。本体の保守が必要になった場合に、元の梱包箱に入れて送り返していただく必要があるためです。

### スキャナーのセットアップ

スキャナーを接続して組み立ててホストとの通信を行うには、このセクションで説明する操作を行います。

1. まず、スキャナーを取り付けます。詳しくは、『**HP Retail Integrated Barcode Scanner Installation Instructions**』（HPリテール インテグレートド バーコード スキャナー 取り付け説明書）を参照してください。
2. **インターフェイス設定を変更します**（そのインターフェイスの工場出荷時設定を使用しない場合のみ）。
3. 「**その他の機能の設定**」に進みます（工場出荷時の設定から変更する必要がある場合）。

## インターフェイスの選択

スキャナーとそのホスト間の物理的な接続が完了した後、お使いのアプリケーションに合わせて初期設定のUSBインターフェイスの種類を変更する場合は、以下の表1に進みます。そのセクションに記載されている適切なバーコードをスキャンして、お使いシステムに合ったインターフェイスの種類を設定します。

このスキャナーではUSBホストインターフェイスがサポートされており、使用できる種類はUSBキーボード（初期設定）、USB標準キーボード（ALTモード）、およびUSB COMです。

## インターフェイスの設定

このセクションに記載されているプログラミング バーコードをスキャンして、スキャナーが接続されるシステムに合った適切なインターフェイスの種類を選択します。次に、このガイドの対応するセクション（表1にも記載されています）に進み、選択したUSBインターフェイスに関連する目的の設定および機能をすべて設定します。



一部のプログラミング機能およびオプションとは異なり、インターフェイスの選択では1つのプログラミングバーコードラベルのみをスキャンする必要があります。インターフェイス選択のバーコードをスキャンする前に、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしないでください。

表1.USBインターフェイスのオプション

USB-COM	機能
 <p>USB-COM-STDの選択<sup>a</sup></p> <p>RS-232標準インターフェイスをシミュレートするためのUSB-COM</p>	<p>USB-COM インターフェイスの機能の設定 (13ページから)</p>
キーボード	機能
<p>USB標準キーボード</p>  <p>USB標準キーボードの選択</p>	<p>USBキーボード インターフェイスの機能の設定 (21ページから)</p>
 <p>USB標準キーボード（ALTモード）の選択</p> <p>USB標準キーボード（ALTモード）</p>	

a. <http://www.hp.com/jp/> にアクセスして、HPのサポートおよびドライバー ダウンロード ページから正しいUSB Comドライバーをダウンロードしてください。

## 設定のカスタマイズ

### インターフェイスの設定

前に記載されている表のインターフェイス用バーコードをスキャンした後、スキャナーをさらにカスタマイズするためのオプションを選択する必要がある場合は、9ページからの「設定パラメーター」で、お使いのインターフェイスの種類に対応するセクションを参照してください。

- 13ページの「USB-COMインターフェイス」
- 21ページの「USBキーボード設定」

### グローバルインターフェイス機能

すべての種類のインターフェイスで設定可能な機能については、11ページの「グローバルインターフェイス機能」を参照してください。

### その他の機能の設定

取り付け時に標準の工場出荷時の初期設定とは異なるプログラミングが必要な場合は、このガイドの以下のセクションで、インターフェイスに固有でない設定を必要に応じて行うことができます。

**データフォーマット**：データフォーマットのオプションを使用すると、特定のユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むことができます。

**読み取り時のパラメーター**：読み取り時のパラメーターには、スキャン、ビープ音やLEDインジケーター、およびその他の全般的な設定に関するプログラミングが含まれています。

**1D読み取りコード**：バーコードラベルの種類（読み取りコード）に関するオプションが含まれています。これらの設定を使用すると、読み取りコードの有効/無効、ラベルの長さの設定、必要なチェックディジットの設定などを行えます。

**2D読み取りコード**：2Dバーコードラベルの種類（読み取りコード）に関するオプションが含まれています。これらの設定を使用すると、読み取りコードの有効/無効、およびラベル固有のオプションの設定を行えます。

### ソフトウェアバージョンの送信

以下のラベルをスキャンすると、デバイスのソフトウェアバージョンをUSB-COMおよびキーボードインターフェイス経由で送信できます。



ソフトウェアバージョンの送信

## 製品の設定の初期状態へのリセット

### カスタム初期設定の復元

スキャナーに設定されているプログラミング オプションがわからなくなった場合、またはいくつかのオプションを変更した後でカスタム初期設定 (スキャナーに保存されている場合) に戻す必要がある場合は、以下の[カスタム初期設定へのリセット]バーコードをスキャンします。これにより、現在有効なインターフェイスのカスタム設定がリセットされます。



カスタム初期設定は、インターフェイスの種類に基づいて行われます。このラベルをスキャンする前に、スキャナーを正しいインターフェイス用に設定してください。



カスタム初期設定へのリセット



## 第3章 バーコードを使用した設定

このセクション以降では、初期設定を変更する方法でスキャナーを設定するためのプログラミングバーコードについて説明します。その他のプログラミング方法について詳しくは、3ページの「設定方法」を参照してください。



このセクションを使用するためには、最初にお使いのスキャナーでバーコードを読み取れるようにする必要があります。読み取れるようにしていない場合は、5ページからの「セットアップ」に進み、適切な手順を終わらせてください。

### 設定パラメーター

スキャナーをセットアップしたら、アプリケーションのニーズに合うように初期設定のパラメーターを変更できます。初期値を設定し、アプリケーション用のインターフェイスを選択するための初期設定については、209ページからの「標準の初期設定」を参照してください。

目的の機能をそのリファレンス グループに基づいて簡単に見つけられるように、以下の設定パラメーターはいくつかの論理グループに分けられています。

#### インターフェイスの設定：

- 13ページの「USB-COMインターフェイス」
- 21ページの「USBキーボード設定」

#### すべてのインターフェイスアプリケーションに共通のパラメーター：

- 29ページの「データフォーマット」には、ホストシステムに送信されるメッセージを制御するためのオプションが記載されています。
- 41ページの「読み取り時のパラメーター」は、さまざまな動作モードおよびインジケータのステータスの機能を制御します。

#### 読み取りコード固有のパラメーター：

- 57ページの「1D読み取りコード」には、1Dコード、コードファミリー、およびそのオプションを個別に組み合わせるための設定が記載されています。
- 147ページの「2D読み取りコード」には、2Dコード、コードファミリー、およびそのオプションを個別に組み合わせるための設定が記載されています。



このセクションを使用するためには、最初にお使いのスキナーでバーコードを読み取れるようにする必要があります。読み取れるようにしていない場合は、5ページからの「セットアップ」に進み、適切な手順を終わらせてください。

各機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 各プログラミング ページの一番上に表示されている[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします（該当する場合）。
2. 目的のプログラミング機能を設定するためのバーコードをスキャンします。スキャン対象のバーコードのみがスキナーで確実に読み取られるように、そのページおよび（場合によっては）見開きページ上の使用しないバーコードを隠す必要が生じる場合があります。
3. その他の入力パラメーターが必要な場合は、付録D「テンキー」に進み、テンキーの適切な文字をスキャンします。



多くの機能に関する追加情報は、「リファレンス」の章に記載されています。

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

4. 一連のプログラミング手順を完了します。このためには、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを終了します。

選択した設定項目の設定に関する詳細な説明、プログラミング情報、および例については、179ページからの「リファレンス」を参照してください。



## グローバルインターフェイス機能

以下のインターフェイス機能は、すべての種類のインターフェイスで設定可能です。

### ホストコマンド：従う/無視

このオプションは、スキャナーがホストコマンドに従うか、それともホストコマンドを無視するかを指定します。無視するように設定した場合、スキャナーは以下の処理に必要なコマンドを除き、すべてのホストコマンドを無視します。

- サービスモード
- フラッシュプログラミングモード
- インターフェイスをアクティブな状態に保つ
- ラベルの送信



ホストコマンド=従う（ホストコマンドを無視しない）



ホストコマンド=無視

### USBサスペンドモード

この設定は、USBインターフェイスがサスペンドモードに入る機能を有効または無効にします。



USBサスペンドモード = 無効



USBサスペンドモード = 有効



プログラミングモードの開始/終了

---

# メモ

# USB-COMインターフェイス

<b>文字間遅延</b> (14ページ)
<b>ASCII BELでのビープ音</b> (15ページ)
<b>Not on Fileでのビープ音</b> (15ページ)
<b>ACK/NAKオプション</b> (16ページ)
<b>ACK文字</b> (17ページ)
<b>NAK文字</b> (17ページ)
<b>ACK NAKのタイムアウト値</b> (18ページ)
<b>ACK NAKの再試行回数</b> (18ページ)
<b>ACK NAKのエラー処理</b> (19ページ)
<b>送信エラーの通知</b> (19ページ)
<b>無効化文字</b> (20ページ)
<b>有効化文字</b> (20ページ)

この章に記載されているプログラミングバーコードを使用すると、標準のUSB-COMインターフェイスを変更できます。標準の工場出荷時設定の一覧については、付録B「標準の初期設定」を参照してください。



## 文字間遅延

このパラメーターは、ある文字の末尾が送られてからその次の文字の先頭が送られるまでの文字間の遅延時間を指定します。遅延時間は、0（ゼロ）～990ミリ秒の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。0を設定すると、遅延なしになります。

詳しくは、[180ページ](#)を参照してください。



文字間遅延=遅延なし



文字間遅延設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

00=文字間遅延なし



## ASCII BELでのビープ音

このパラメーターを有効にすると、シリアル回線で<BEL>文字が検出されたときにスキャナーでビープ音が鳴ります。<BEL>は、不正な入力またはその他の重要なイベントに対してユーザーの注意を促すために発行されます。



ASCII BELのビープ音=無効



ASCII BELのビープ音=有効

## Not on Fileでのビープ音

このオプションは、NOF (Not-On-File) ホスト コマンドの受信時にスキャナーでビープ音を続けて3回鳴らす動作を有効または無効にします。



Not on Fileのビープ音=無効



Not on Fileのビープ音=有効



## ACK/NAKオプション

このオプションは、スキャナーのACK/NAKプロトコル サポート機能を有効または無効にします。詳しくは、[181ページ](#)を参照してください。



ACK/NAKプロトコル=ACK/NAKを無効



ACK/NAKプロトコル=ラベルの送信で有効



ACK/NAKプロトコル=ホスト コマンドの確認応答で有効



ACK/NAKプロトコル=ラベルの送信および  
ホスト コマンドの確認応答で有効





## ACK文字

この設定は、ACK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。詳しくは、[181ページ](#)を参照してください。



ACK文字設定の選択

初期設定

0x06 「ACK」 文字

## NAK文字

この設定は、NAK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。詳しくは、[182ページ](#)を参照してください。



NAK文字設定の選択

初期設定

0x15 「NAK」 文字



## ACK NAKのタイムアウト値

このオプションは、ラベルの送信後にホストからACK文字が送られてくるまでスキャナーが待機する時間を指定します。選択できるタイムアウト値の範囲は、200～15,000ミリ秒（15秒）（200ミリ秒単位）です。0を選択すると、タイムアウトは無効になります。

この機能の設定について詳しくは、[183ページ](#)を参照してください。



ACK NAKのタイムアウト値設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



初期設定

01=ACK/NAKのタイムアウト値は200ミリ秒です

## ACK NAKの再試行回数

この機能は、再試行状態のためにスキャナーでラベルの送信を再試行する回数を指定します。選択できる再試行回数は1～254です。0を選択すると、再試行回数は無効になり、255を選択すると、再試行回数は無制限になります。詳しくは、[184ページ](#)を参照してください。



ACK NAKの再試行回数設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



初期設定

003=3回の再試行



## ACK NAKのエラー処理

この機能は、ホストからのACK文字の待機中に検出された受信エラーをスキャナーで処理する方法を指定します。



ACK NAKのエラー処理=エラーを無視



ACK NAKのエラー処理=エラーを有効なACK文字として処理



ACK NAKのエラー処理=エラーを有効なNAK文字として処理

## 送信エラーの通知

このオプションは、ACK/NAKモードのときにスキャナーで送信エラーを知らせるビープ音を鳴らす機能を有効または無効にします。



送信エラーの通知=通知を無効



送信エラーの通知=通知を有効





## 無効化文字

スキャナーを無効にするために使用するホスト コマンド内の値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。

この機能の設定について詳しくは、[185ページ](#)を参照してください。



無効化文字設定の選択

初期設定

0x44=無効化文字は「D」です

## 有効化文字

スキャナーを有効にするために使用するホスト コマンド内の値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。

この機能の設定について詳しくは、「リファレンス」の[186ページ](#)を参照してください。



有効化文字設定の選択

初期設定

0x45=有効化文字は「E」です

# USBキーボード設定

<b>国モード</b> (22ページ)
<b>制御文字の送信</b> (25ページ)
<b>コード間遅延</b> (26ページ)
<b>Caps Lockの状態</b> (26ページ)
<b>USBキーボードの速度</b> (27ページ)
<b>USBキーボードのテンキー</b> (28ページ)

USBキーボードインターフェイス用のオプションを選択するには、この章に記載されているプログラミングバーコードを使用します。標準の工場出荷時設定の一覧については、[付録B「標準の初期設定」](#)を参照してください。

キーボードインターフェイスに適用される制御文字エミュレーションに関する情報の一覧は、[付録E「スキャンコード表」](#)に記載されています。



## 国モード

この機能は、USBキーボードによってサポートされる国や言語を指定します。



国モード=米国



国モード=ベルギー



国モード=英国



国モード=クロアチア

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。



国モード=チェコ共和国



国モード=デンマーク

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。



国モード=フランス

## 国モード（続き）

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。



国モード=フランス語圏カナダ



国モード=ドイツ

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。



国モード=ハンガリー



国モード=イタリア

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。



国モード=日本語106キー



国モード=リトアニア

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。



国モード=ノルウェー



## 国モード (続き)



国モード=ポーランド

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。



国モード=ポルトガル



国モード=ルーマニア

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。



国モード=スロバキア



国モード=スペイン



国モード=スウェーデン



国モード=スイス

国モード機能の説明に記載されているインターフェイスにのみ対応しています。





## 制御文字の送信

この機能は、スキャナーからホストにASCII制御文字を送信する方法を指定します。制御文字について詳しくは、付録E「スキャンコード表」を参照してください。

オプションは、以下のとおりです。

**制御文字00** : 00 ~ 0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + キーとして送信され、特殊キーは0x80 ~ 0xA1に配置されます。

**制御文字01** : 00 ~ 0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + 大文字キーとして送信され、特殊キーは0x80 ~ 0xA1に配置されます。

**制御文字02** : 特殊キーは00 ~ 0x1Fに配置され、0x80 ~ 0xFEの文字は拡張ASCII表（230ページの「Microsoft® Windows®コードページ1252」を参照してください）に従って送信されるよう意図されています。



スキャナーでの制御文字の送信=00



スキャナーでの制御文字の送信=01



スキャナーでの制御文字の送信=02



## コード間遅延

キーボード インターフェイスでホストに送信されるラベル間の遅延時間を指定します。選択できるこの機能の値は0～99秒です。

この機能の設定に関する詳細情報および例については、「リファレンス」の187ページを参照してください。



コード間遅延の設定

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

00=コード間遅延なし

## Caps Lockの状態

このオプションは、スキャナーから送信される文字データのフォーマットを指定します。標準キーボード（ALTモード）を選択した場合、このオプションは適用されません。

初期設定



Caps Lockの状態 = Caps Lockオフ



Caps Lockの状態=Caps Lockオン



Caps Lockの状態=自動Caps Lock有効



## USBキーボードの速度

このオプションは、USBキーボードのUSBポーリングレートを指定します。



この機能はUSBキーボード インターフェイスにのみ適用されます。

初期設定



USBキーボードの速度 = 1ミリ秒



USBキーボードの速度 = 2ミリ秒



USBキーボードの速度 = 3ミリ秒



USBキーボードの速度 = 4ミリ秒



USBキーボードの速度 = 5ミリ秒



USBキーボードの速度 = 6ミリ秒



## USBキーボードの速度（続き）



USBキーボードの速度 = 7ミリ秒



USBキーボードの速度 = 8ミリ秒



USBキーボードの速度 = 9ミリ秒



USBキーボードの速度 = 10ミリ秒

## USBキーボードのテンキー

このオプションは、数字の送信に標準のキーまたはテンキーのどちらを使用するかを制御します。



標準キー



テンキー

# データフォーマット

<b>グローバルプレフィックス/サフィックス</b> (30ページから)
<b>グローバルAIM ID</b> (30ページから)
<b>GS1-128のAIM IDの個別設定</b> (33ページから)
<b>ラベルID</b> (34ページ~) <ul style="list-style-type: none"><li>・個別設定ラベルID</li><li>・ラベルIDの制御</li><li>・ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード</li><li>・ラベルIDの読み取りコードの選択：2D読み取りコード</li></ul>
<b>大文字/小文字変換</b> (40ページから)
<b>文字変換</b> (40ページから)

この章に記載されている機能を使用すると、特定のユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むことができます。これらの機能の設定手順について詳しくは、[179ページからの「リファレンス」](#)を参照してください。



## グローバルプレフィックス/サフィックス

このオプションでは最大20文字を設定し、各文字はASCII文字セットまたは00～FFの16進値から選択できます。これらの文字は、プレフィックス（ヘッダーとも呼ばれる）として（バーコード データの前の位置に）追加することも、サフィックス（フッターとも呼ばれる）として（バーコード データの後ろの位置に）追加することもできます。この機能の設定手順について詳しくは、[190ページ](#)を参照してください。

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして本体をプログラミングモードにしてから、[グローバルプレフィックスの設定]または[グローバルサフィックスの設定]バーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字（16進数）を指定します。想定された20文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして文字列を終了します。プログラミングモードを終了するには、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。



グローバルプレフィックスの設定



グローバルサフィックスの設定

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

グローバルプレフィックスなし  
グローバルサフィックス=0x0D

## グローバルAIM ID



この機能は、すべての種類の読み取りコードを対象にAIM IDの追加を有効または無効にします。

（ラベルIDのようにユーザー自身が選択するカスタム文字とは対照的に）AIMラベルIDをスキャンされたバーコード データに付加できます。AIM IDの一覧については、以下の[表2](#)を参照してください。AIMラベルIDは、以下のように3つの文字で構成されます。

- 閉じ括弧文字（ASCIIの「】」）。この後に以下の文字が続きます。



- コード文字（以下の表のいくつかのサンプルを参照してください）。この後に以下の文字が続きます。
- 修飾文字（修飾文字は読み取りコードによって決まります）。



グローバルなAIM ID=無効



グローバルAIM ID=有効

表2.AIM ID

タグ名	AIM IDコード 文字	AIM IDコード ASCII値
ABC CODABAR	X	58
ANKER PLESSEY	N	4E
AZTEC	z	7A
CHINA SENSIBLE CODE	X	58
CODABAR	F	46
CODE11	H	48
CODE128	C	43
CODE32	A	41
CODE39	A	41
CODE39 CIP	X	58
CODE39 DANISH PPT	X	58
CODE39 LAPOSTE	X	58
CODE39 PZN	X	58
CODE93	G	47
DATABAR 14	e	65
DATABAR 14 COMPOSITE	e	65
DATABAR EXPANDED	e	65
DATABAR EXPANDED COMPOSITE	e	65
DATABAR LIMITED	e	65
DATABAR LIMITED COMPOSITE	e	65
DATA MATRIX	d	64
EAN128	C	43
EAN128 COMPOSITE	C	43
EAN13	E <sup>a</sup>	45
EAN13 P2	E	45
EAN13 P5	E	45
EAN13 COMPOSITE	E	45
EAN8	E	45
EAN8 P2	E	45



タグ名	AIM IDコード 文字	AIM IDコード ASCII値
EAN8 P5	E	45
EAN8 COMPOSITE	E	45
FOLLET 20F5	X	58
I20F5	I	49
IATA INDUSTRIAL 20F5	X	58
INDUSTRIAL 20F5	X	58
ISBN	Xb	58
ISBT128 CONCAT	X	58
ISSN	X	58
MAXICODE	U	55
MICRO QR	Q	51
MICRO PDF	L	4C
MSI	M	4D
PDF417	L	4C
PLESSEY	P	50
POSTAL AUSTRALIAN	X	58
POSTAL IMB	X	58
POSTAL JAPANESE	X	58
POSTAL KIX	X	58
POSTAL PLANET	X	58
POSTAL PORTUGAL	X	58
POSTAL POSTNET BB	X	58
POSTAL ROYAL MAIL	X	58
POSTAL SWEDISH	X	58
POSTNET	X	58
QR CODE	Q	51
S25	S	53
TRIOPTIC	X	58
UPCA	Ea	45
UPCA P2	E	45
UPCA P5	E	45
UPCA COMPOSITE	E	45
UPCE	E	45
UPCE P2	E	45
UPCE P5	E	45
UPCE COMPOSITE	E	45

- a. AIM IDの追加時に、UPC-AおよびUPC-EラベルはEAN 13に変換されます。
- b. ISBN（修飾文字0が付いたX）



## GS1-128のAIM IDの個別設定

この機能は、GS1-128読み取りコードのラベルIDを個別に設定するものであり、ラベルIDと同じ方法でプログラムできます。プログラミング手順について詳しくは、[195ページの「ラベルID：読み取りコードごとに個別設定」](#)を参照してください。



GS1-128のAIM IDの個別設定=無効



GS1-128のAIM IDの個別設定=有効



## ラベルID

ラベルIDは、最大3つのASCII文字（各文字は0x01～0xFFの16進値のどれか）で構成されるカスタマイズ可能なコードであり、バーコード（読み取りコード）の種類を識別するために使用されます。このオプションを有効にする方法に応じて、送信されるバーコード データの前または後ろにラベルIDを連結できます。この機能には、カスタムのラベルIDを読み取りコードごとに個別に設定するためのオプションが用意されています（以下の「個別設定ラベルID」を参照してください）。「すべての」種類の読み取りコードで常に業界標準のラベルIDが含まれるようにスキャナーをプログラミングする場合は、前の機能、30ページの「グローバルAIM ID」を参照してください。

この機能の設定について詳しくは、「リファレンス」の192ページからの「ラベルID」を参照してください。

## 個別設定ラベルID

この機能は、1つの読み取りコードのラベルIDを個別に設定します。設定するには、まず以下のラベルをスキャンして、ラベルIDをプレフィックス、サフィックスのどちらにするかを定義します。次に、35ページからの「ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード」または39ページからの「ラベルIDの読み取りコードの選択：2D読み取りコード」を参照して設定対象の読み取りコードを選択した後、このガイドの裏表紙にあるASCII表から最大3つの文字を指定します。この機能の設定手順について詳しくは、195ページの「ラベルID：読み取りコードごとに個別設定」を参照してください。

## ラベルIDの制御

このオプションは、指定された種類の読み取りコードについて、ラベルIDを無効にするか、ラベルIDをプレフィックスとして送信するか、それともラベルIDをサフィックスとして送信するかを制御します。



ラベルIDの送信=無効



ラベルIDの送信=プレフィックスとして有効



ラベルIDの送信=サフィックスとして有効



## ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード

このオプションは、ラベルIDが設定される予定の読み取りコードを選択します。詳しい手順については、34ページの「ラベルID」または195ページの「ラベルID：読み取りコードごとに個別設定」を参照してください。



想定された3文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードを2回スキャンすることで、選択を受け入れてプログラミングモードを終了します。



ABC CodabarのラベルID文字の設定



Code 32 PharmacodeのラベルID文字の設定



Anker PlesseyのラベルID文字の設定



Code 93のラベルID文字の設定



CodabarのラベルID文字の設定



連結されたISBT 128のラベルID文字の設定



Code 11のラベルID文字の設定



Danish PPTのラベルID文字の設定



Code 128のラベルID文字の設定



EAN 13のラベルID文字の設定



Code 39のラベルID文字の設定



EAN 13 CompositeのラベルID文字の設定



Code 39 CIPラベルID文字の設定



EAN 13 P2のラベルID文字の設定



## ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード（続き）



EAN 8のラベルID文字の設定



EAN 13 P5のラベルID文字の設定



EAN 8 CompositeのラベルID文字の設定



GS1 DataBar™ Expanded CompositeのラベルID文字の設定



EAN 8 P2のラベルID文字の設定



GS1-128のラベルID文字の設定



EAN 8 P5のラベルID文字の設定



GS1-128 CompositeのラベルID文字の設定



GS1 DataBar 14のラベルID文字の設定



GS1 DataBar LimitedのラベルID文字の設定



GS1 DataBar 14 CompositeのラベルID文字の設定



GS1 DataBar Limited CompositeのラベルID文字



GS1 DataBar ExpandedのラベルID文字の設定



GTIN 2のラベルID文字の設定



IATA Industrial 2 of 5のラベルID文字の設定



GTIN 5のラベルID文字の設定

## ラベルIDの読み取りコードの選択 : 1D読み取りコード (続き)



Industrial 2 of 5のラベルID文字の設定



GTIN 8のラベルID文字の設定



Interleaved 2 of 5のラベルID文字の設定



MSIのラベルID文字の設定



ISBNのラベルID文字の設定



PlesseyのラベルID文字の設定



ISSNのラベルID文字の設定



UPC-A CompositeのラベルID文字の設定



PZN CodeのラベルID文字の設定



UPC-A P2のラベルID文字の設定



Standard 2 of 5のラベルID文字の設定



UPC-A P5のラベルID文字の設定



Trioptic CodeのラベルID文字の設定



UPC-EのラベルID文字の設定



## ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード（続き）



UPC-AのラベルID文字の設定



UPC-E P5のラベルID文字の設定



LaPoste Code 39のラベルID文字の設定

## ラベルIDの読み取りコードの選択：2D読み取りコード



AztecのラベルID文字の設定



MaxicodeのラベルID文字の設定



China SensibleのラベルID文字の設定



PDF 417のラベルID文字の設定



Data MatrixのラベルID文字の設定



Micro PDF 417のラベルID文字の設定



PostnetのラベルID文字の設定



QR CodeのラベルID文字の設定



Planet郵便番号のラベルID文字の設定



日本の郵便番号のラベルID文字の設定



英国の郵便番号のラベルID文字の設定



スウェーデンの郵便番号のラベルID文字の設定



Kix郵便番号のラベルID文字の設定



IMB郵便番号のラベルID文字の設定



オーストラリアの郵便番号のラベルID文字の設定



ポルトガルの郵便番号のラベルID文字の設定

## 大文字/小文字変換

この機能を使用すると、すべてのアルファベット文字を大文字または小文字に変換できます。



大文字/小文字変換は、スキャンされたバーコードデータにのみ影響し、ラベルID、プレフィックス、サフィックス、またはその他の付加データには影響しません。



大文字/小文字変換=無効 (大文字/小文字変換なし)



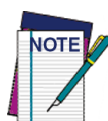
大文字/小文字変換=大文字に変換



大文字/小文字変換=小文字に変換

## 文字変換

文字変換は、8バイトの設定項目です。この8バイトは、16進のASCII値で表現される4つの文字ペアです。このペアの最初の文字は変換前の文字です。このペアの2つ目の文字は変換後の文字です。ペア内の変換後の文字が「FF」である場合、変換は行われません。



想定された16文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードを2回スキャンすることで、選択を受け入れてプログラミングモードを終了します。



文字変換の設定



0xFFFFFFFFFFFFFFFF  
(文字変換なし)



# 読み取り時のパラメーター

<b>二重読み取りのタイムアウト</b> (42ページから)
<b>LEDおよびビープ音によるインジケータ</b> (44ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>•電源投入時の警告</li><li>•読み取り成功：通知のタイミング</li><li>•読み取り成功ビープ音の種類</li><li>•読み取り成功ビープ音の周波数</li><li>•読み取り成功ビープ音の長さ</li><li>•読み取り成功ビープ音の音量</li><li>•読み取り成功LEDの持続時間</li></ul>
<b>スキャン機能</b> (49ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>•動作モード</li><li>•スキャン有効時間</li><li>•緑色スポットの持続時間</li><li>•携帯電話モード</li><li>•モバイルバイアス</li><li>•照射オフ時間</li><li>•照射オン時間</li><li>•プレゼンテーションモード用照射の制御</li><li>•照準ポインター</li><li>•照準の持続時間タイマー</li><li>•白黒反転イメージのデコード</li><li>•イメージキャプチャ</li></ul>
<b>複数ラベルの読み取り</b> (55ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>•ボリューム内の複数ラベルの読み取り</li><li>•フレームごとの複数ラベル</li><li>•読み取りコードによる複数ラベルの順序付け</li><li>•コード長による複数ラベルの順序付け</li></ul>



## 二重読み取りのタイムアウト

[二重読み取りのタイムアウト]は、同じラベルの二重読み取りを防ぐため、同じ読み取りコードおよびデータのラベルの読み取りの間に許可される最小時間を設定します。本体でラベルが読み取られた後、指定されたタイムアウト内に同じラベルが再度検出された場合、その2回目の読み取りは無視されます。

[二重読み取りのタイムアウト]は、ラベルを読み取るたびにトリガーを引く必要のあるスキャンモードには適用されません。



二重読み取りのタイムアウト=0.1秒



二重読み取りのタイムアウト=0.2秒



二重読み取りのタイムアウト=0.3秒



二重読み取りのタイムアウト=0.4秒



二重読み取りのタイムアウト=0.5秒



二重読み取りのタイムアウト=0.6秒



二重読み取りのタイムアウト=0.7秒

## 二重読み取りのタイムアウト（続き）



二重読み取りのタイムアウト=0.8秒



二重読み取りのタイムアウト=0.9秒



二重読み取りのタイムアウト=1秒



## LEDおよびビープ音によるインジケータ

### 電源投入時の警告

スキャナーに電力が供給されているという（ビープ音による）通知を無効または有効にします。



電源投入時の警告=無効（ビープ音による通知なし）



電源投入時の警告=電源投入時のビープ音



### 読み取り成功：通知のタイミング

この機能は、バーコードの読み取りに成功したときに、スキャナーから通知される（ビープ音が鳴ったり、緑色のLEDが点滅したりする）タイミングを指定します。



読み取り成功の通知=デコード後



読み取り成功の通知=送信後



読み取り成功の通知=  
CTSが無効になってから有効になった後



## 読み取り成功のビープ音の種類

読み取り成功ビープ音が単音調か複音調かを指定します。



読み取り成功のビープ音の種類=単音調



読み取り成功のビープ音の種類=複音調

## 読み取り成功のビープ音の周波数

以下の一覧から選択できる低い、中程度、または高い周波数で鳴るように読み取り成功ビープ音を調整します。(ビープ音の音程の高さや階調を制御します。)



読み取り成功のビープ音の周波数=低



読み取り成功のビープ音の周波数=中



読み取り成功のビープ音の周波数=高



## 読み取り成功のビープ音の長さ



読み取り成功のビープ音の長さ=60ミリ秒



読み取り成功のビープ音の長さ=80ミリ秒



読み取り成功のビープ音の長さ=100ミリ秒



読み取り成功のビープ音の長さ=120ミリ秒



読み取り成功のビープ音の長さ=140ミリ秒



読み取り成功のビープ音の長さ=160ミリ秒



読み取り成功のビープ音の長さ=180ミリ秒



読み取り成功のビープ音の長さ=200ミリ秒



## 読み取り成功のビープ音の音量

読み取り成功ビープ音を鳴らすときの音量（音の大きさ）を指定します。3つの音量レベルを選択できます。



読み取り成功のビープ音の音量=ビープ音オフ



読み取り成功のビープ音の音量=低



読み取り成功のビープ音の音量=中



読み取り成功のビープ音の音量=高

初期設定



## 読み取り成功のLEDの持続時間

この機能は、読み取りの成功後に読み取り成功を示すLEDがオンのままになる時間を指定します。読み取り成功LEDの持続時間は、100～25,500ミリ秒（0.1～25.5秒）の範囲（100ミリ秒単位）で設定できます。00を設定すると、次のトリガーが引かれるまでLEDはオンのままになります。

この機能の設定に関する詳細手順および例については、「リファレンス」の198ページを参照してください。



読み取り成功LEDの持続時間設定=  
次のトリガーが引かれるまでLEDはオンのまま



読み取り成功のLEDの持続時間設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

003=読み取り成功LEDが  
300ミリ秒間オンのままになります



スリープ時にはインジケータは消灯します。



## スキャン機能

### 動作モード

スキャナーのスキャン動作モードを選択します。詳しくは、「リファレンス」の199ページを参照してください。



自動（常時オン）



自動（オブジェクト検知）

### スキャン有効時間

この設定は、スキャナーでスキャンが有効な状態になった後、その状態のままている時間を指定します。1～255秒の範囲（1秒単位）で設定できます。この機能について詳しくは、「リファレンス」の199ページを参照してください。



スキャン有効時間=3秒



スキャン有効時間=5秒



スキャン有効時間=8秒



## 緑色スポットの持続時間

読み取りの成功後に読み取り成功を示すポインター光線が点灯する時間を指定します。



緑色スポットの持続時間=無効（緑色スポットがオフ）



緑色スポットの持続時間=短（300ミリ秒）



緑色スポットの持続時間=中（500ミリ秒）



緑色スポットの持続時間=長（800ミリ秒）

## 携帯電話モード

このモードは、携帯電話に表示されているバーコードをスキャンする場合に便利です。この機能のその他のオプションは、HPの設定アプリケーションを使用して設定できます。



携帯電話モード=無効



携帯電話モード=有効



## モバイルバイアス

この可変モードは、スキャンモジュールの動作を変えて、標準のラベルではなくモバイルデバイスのディスプレイから読み取れるようにバーコードのスキャン機能を最適化します。0~255の範囲で設定できます。



モバイルバイアスの設定



モバイルバイアスなし

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

## 照射オフ時間

この機能は、照射オンのタイムアウト後に照射がオフのままになる時間を定義します。照射オフの時間が過ぎると、オブジェクト検知が再開されます。この設定は、「自動（オブジェクト検知）」でのみ使用できます。0~25.5秒の範囲（100ミリ秒間隔）で設定できます。



照射オフ時間設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。



0ミリ秒



## 照射オン時間

ラベルのデコード後に照射がオンのままになる時間を定義します。照射オンの時間が過ぎる前にオブジェクトが検出された場合は、オブジェクト通過のタイムアウト値でタイマーが更新されます。0～25.5秒の範囲（100ミリ秒間隔）で設定できます。



この設定は、「自動（オブジェクト検知）」でのみ使用できます。



照射オン時間設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。



1秒

## プレゼンテーションモード用照射の制御

読み取りモードが「自動トリガー オブジェクト検知」になっていて、スキャナーがオブジェクトを検出しようとしているときの照射の状態を制御します。



照射の制御=オフ



照射の制御=オン



照射の制御=減光



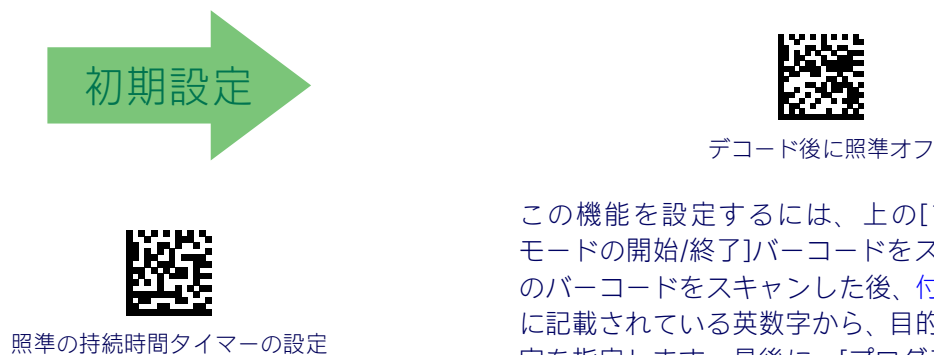
## 照準ポインター

すべての読み取りコードを対象に照準ポインターを有効または無効にします。



## 照準の持続時間タイマー

オンラインまたはシリアル オンライン モードのときに、ラベルのデコード後に照準ポインターがオンのままになる時間を指定します。1～255秒の範囲（1秒単位）で設定できます。この機能について詳しくは、「リファレンス」の200ページを参照してください。



この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



## 白黒反転イメージのデコード

すべての読み取りコードを対象に白黒反転イメージのデコード機能を有効または無効にします。この機能を有効にすると、このガイドに記載されている通常印刷されたラベルまたはプログラミングラベルの読み取りができなくなります。以下の[白黒反転イメージのデコード=無効]バーコードをスキャンすると、スキャナーでこの機能が初期設定に戻ります。2Dコードのみを対象にデコード機能を設定するには、149ページの「2Dの通常/反転読み取りコード制御」に進みます。その他のオプションについては、HPの設定アプリケーションを参照してください。

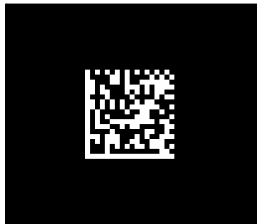


一部のプログラミング機能およびオプションとは異なり、白黒反転イメージのデコードの選択では1つのプログラミングバーコードラベルのみをスキャンする必要があります。白黒反転イメージのバーコードをスキャンする前に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンしないでください。



注意

この機能を有効にすると、このガイドに記載されている他のプログラミングラベルの読み取りができなくなります。



白黒反転イメージのデコード=無効



初期設定



白黒反転イメージのデコード=有効

## イメージキャプチャ

イメージキャプチャに関する情報およびオプションの一覧については、HPの設定アプリケーションを参照してください。この設定アプリケーションは、製品に付属のCD-ROMに収録されており、Webサイトからもダウンロードできます。



## 複数ラベルの読み取り

標準（初期設定）モードの場合、動きによってスキャナーの照準システムがアクティブになると、スキャナーの正面の領域（ポリウム）内に存在する各イメージが取得されて処理されます。この場合、1つのラベルのデコードが完了した時点でスキャナーはイメージの処理を停止します。ポリウム内にいくつかのラベルが存在する場合は、最初に検出されたラベルのみがデコードされて送信されます。

複数読み取りモードが有効になると、存在するすべてのラベルがデコードされるまで、スキャナーはイメージの処理を継続します。その後スキャナーは、すべてのバーコードからのデータをソートした後で、データの送信を行います（ソートするように設定されていた場合）。

## ポリウム内の複数ラベルの読み取り

同じポリウム（スキャナーの前の領域）内の複数のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



複数ラベルの読み取り=無効



複数ラベルの読み取り=有効

## フレームごとの複数ラベル

特定のポリウム内の一連のコード ラベルを単一の時間フレーム内でデコードして送信するスキャナーの機能を指定します。[フレームごとの複数ラベル]が有効になっている場合、スキャナーは、読み取り成功時のピープ音とLEDによる通知を、フレーム内でコードが読み取られるたびにを行います。

複数ラベルモードが有効な場合、ISBTのペアリング、ABC Codabarのペアリング、およびコンポジットは許可されません。



フレームごとの複数ラベル=無効



フレームごとの複数ラベル=有効



## 読み取りコードによる複数ラベルの順序付け

[フレームごとの複数ラベル]が有効になっている場合にこの機能を使用すると、複数ラベルの送信順序を読み取りコードの種類に基づいて指定できます。この機能の設定について詳しくは、「リファレンス」の201ページを参照してください。



複数ラベルの順序付けに使用する読み取りコードの選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

000000000000=ランダム

## コード長による複数ラベルの順序付け

[フレームごとの複数ラベル]が有効になっている場合に、コード長による送信の順序付けを指定します。

初期設定



複数ラベルの順序付け=無効



長さの昇順で送信



長さの降順で送信



# 1D読み取りコード

## 1Dコードの選択

このスキャナーは、以下の1D読み取りコード（バーコードの種類）に対応しています。2Dバーコードについては、147ページからの「[2D読み取りコード](#)」を参照してください。各章には、読み取りコードに依存するオプションが含まれています。

- すべての読み取りコードの無効化 ([58ページ](#))
- Code EAN/UPC ([59ページ](#))
- UPC-E ([62ページ](#))
- GTINへのフォーマット変換 ([65ページ](#))
- EAN 13 (JAN 13) ([66ページ](#))
- ISSN ([68ページ](#))
- EAN 8 (JAN 8) ([69ページ](#))
- UPC/EANのグローバル設定 ([71ページ](#))
- アドオン ([73ページ](#))
- Code 39 ([80ページ](#))
- Code 32 (イタリアの医薬品) ([86ページ](#))
- Code39 CIP (フランスの医薬品) ([87ページ](#))
- Code 39 LaPoste ([88ページ](#))
- Code 128 ([88ページ](#))
- GS1-128 ([94ページ](#))
- Code ISBT 128 ([95ページ](#))
- Interleaved 2 of 5 (I2 of 5) ([98ページ](#))
- Follett 2 of 5 ([103ページ](#))
- Standard 2 of 5 ([104ページ](#))
- Industrial 2 of 5 ([108ページ](#))
- Code IATA ([112ページ](#))
- Codabar ([113ページ](#))
- ABC Codabar ([119ページ](#))
- Code 11 ([122ページ](#))
- GS1 DataBar Omnidirectional ([126ページ](#))
- GS1 DataBar Expanded ([127ページ](#))
- GS1 DataBar Limited ([132ページ](#))
- Code 93 ([133ページ](#))
- MSI ([138ページ](#))
- Plessey ([143ページ](#))

各機能またはオプションの初期設定は、緑色の矢印で示されています。また、最も一般的に使用されている標準の工場出荷時設定の一覧については、[付録B「標準の初期設定」](#)を参照してください。このセクションには、お使いのシステムに必要なだったり、導入したりするカスタム設定も記載されています。

大部分の機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 該当するプログラミング ページの一番上にある[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 目的のプログラミング機能またはパラメーターを設定するためのバーコードをスキャンします。スキャン対象のバーコードのみがスキャナーで確実に読み取られるように、そのページおよび（場合によっては）見開きページ上の使用しないバーコードを隠す必要が生じる場合があります。
3. その他の入力パラメーターが必要な場合は、[付録D「テンキー」](#)に進み、テンキーの適切な文字をスキャンします。



多くの機能に関する追加情報は、「リファレンス」の章に記載されています。

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

4. 一連のプログラミング手順を完了します。このためには、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを終了します。



## すべての読み取りコードの無効化

この機能を使用すると、すべての読み取りコードを無効にできます。

1. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. [すべての読み取りコードの無効化]バーコードをスキャンします。
3. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして一連のプログラミング手順を完了します。



すべての読み取りコードを無効にする



この操作を行っても、プログラミングラベルの読み取りは無効になりません。

## Code EAN/UPC

### クーポンの制御

この機能を使用すると、スキャナーでのクーポン ラベルの処理方法を制御できます。



クーポンの制御=すべてのクーポンバーコードの  
デコードを許可する



クーポンの制御=UPCAクーポンの  
デコードのみを有効にする



クーポンの制御=GS1 DataBarクーポンの  
デコードのみを有効にする



## UPC-A

UPC-A読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### UPC-Aの有効/無効

このオプションを無効にすると、スキャナーでUPC-Aのバーコードが読み取られません。



UPC-A=有効



UPC-A=無効



### UPC-Aのチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、UPC-Aのバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。



UPC-Aのチェックキャラクタの送信=送信する



UPC-Aのチェックキャラクタの送信=送信しない



## UPC-AからEAN-13への拡張

UPC-AデータをEAN-13データフォーマットに拡張します。また、この機能を選択すると、読み取りコードIDがEAN-13に必要な読み取りコードIDに変更されます。



UPC-AからEAN-13=拡張しない



UPC-AからEAN-13=拡張する

## UPC-Aのナンバー システム キャラクタの送信

この機能は、UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信を有効または無効にします。



UPC-Aのナンバー システム キャラクタ=送信しない



UPC-Aのナンバー システム キャラクタ=送信する





## UPC-Aの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。



EAN-13の2Dコンポーネント=無効  
(2Dコンポーネントは不要)



EAN-13の2Dコンポーネント=  
2Dコンポーネントのデコードが必要

## UPC-E

UPC-E読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### UPC-Eの有効/無効

このオプションを無効にすると、スキャナーでUPC-Eのバーコードが読み取られません。



UPC-E=無効



UPC-E=有効





## UPC-Eのチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、UPC-Eのバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。



UPC-Eのチェックキャラクタの送信=送信しない



UPC-Eのチェックキャラクタの送信=送信する

## UPC-Eの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。



UPC-Eの2Dコンポーネント=無効  
(2Dコンポーネントは不要)



UPC-Eの2Dコンポーネント=  
2Dコンポーネントのデコードが必要



## UPC-EからEAN-13への拡張

UPC-EデータをEAN-13データ フォーマットに拡張します。また、この機能を選択すると、読み取りコードIDがEAN-13に必要な読み取りコードIDに変更されます。



UPC-EからEAN-13=拡張しない



UPC-EからEAN-13=拡張する

## UPC-EからUPC-Aへの拡張

UPC-EデータをUPC-Aデータ フォーマットに拡張します。



UPC-EからUPC-A=拡張しない



UPC-EからUPC-A=拡張する





## UPC-Eのナンバー システム キャラクタの送信

この機能は、UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信を有効または無効にします。



UPC-Eのナンバー システム キャラクタ=送信しない



初期設定



UPC-Eのナンバー システム キャラクタ=送信する

## GTINへのフォーマット変換

この機能は、UPC-E、UPC-A、EAN 8、およびEAN 13のラベルを14文字のGTINフォーマットに変換する機能を有効または無効にします。



変換前のベース ラベルにアドオン情報が存在する場合、変換後のGTINラベルにアドオン情報が付加されます。



初期設定



GTINへのフォーマット変換=無効



GTINへのフォーマット変換=有効



## EAN 13 (JAN 13)

EAN 13 (JAN 13) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### EAN 13の有効/無効

このオプションを無効にすると、スキャナーでEAN 13またはJAN 13のバーコードが読み取られません。



EAN 13=有効



EAN 13=無効



### EAN 13のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、EAN 13のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。



EAN 13のチェックキャラクタの送信=送信する



EAN 13のチェックキャラクタの送信=送信しない





## EAN 13のフラグ1の文字

EAN 13またはJAN 13のフラグ1文字の送信を有効または無効にします。フラグ1の文字は、ラベルの最初の文字です。



## EAN 13からISBNへの変換

このオプションは、978で始まるEAN 13またはJAN 13 BooklandラベルからISBNラベルへの変換を有効または無効にします。





## EAN-13の2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。



EAN-13の2Dコンポーネント=無効  
(2Dコンポーネントは不要)



EAN-13の2Dコンポーネント=  
2Dコンポーネントのデコードが必要

## ISSN

ISSN読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### ISSNの有効/無効

977で始まるEAN 13/JAN 13 BooklandラベルからISSNラベルへの変換を有効または無効にします。



ISSN=無効



ISSN=有効

## EAN 8 (JAN 8)

EAN 8 (JAN 8) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### EAN 8の有効/無効

このオプションを無効にすると、スキャナーでEAN 8またはJAN 8のバーコードが読み取られません。



EAN 8=有効



EAN 8=無効



初期設定

### EAN 8のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、EAN 8のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。



EAN 8のチェックキャラクタの送信=送信する



EAN 8のチェックキャラクタの送信=送信しない



初期設定



## EAN 8からEAN 13への拡張

このオプションを有効にすると、EAN 8/JAN 8ラベルがEAN 13/JAN 13に拡張されます。



EAN 8からEAN 13への拡張=無効



EAN 8からEAN 13への拡張=有効

## EAN 8の2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。



EAN 8の2Dコンポーネント=無効  
(2Dコンポーネントは不要)



EAN 8の2Dコンポーネント=  
2Dコンポーネントのデコードが必要

## UPC/EANのグローバル設定

このセクションでは、UPC-A、UPC-E、EAN 13、およびEAN 8の読み取りコードの設定について説明します。各機能の説明で特に指定がなければ、このセクションの設定は、それらのすべての読み取りコードに影響します。

### UPC/EANの価格とウェイトのチェック

この機能は、価格とウェイトのチェック デジットの計算および検証を有効または無効にします。



価格とウェイトのチェック=無効



価格とウェイトのチェック=4桁の価格とウェイトのチェック



価格とウェイトのチェック=5桁の価格とウェイトのチェック



価格とウェイトのチェック=欧州向けの4桁の価格と  
ウェイトのチェック



価格とウェイトのチェック=欧州向けの5桁の価格と  
ウェイトのチェック



## UPC/EANのクワイエットゾーン

この機能は、UPC/EANラベルのクワイエットゾーンの数进行指定します。クワイエットゾーンとは、バーコードの両端にある空白の領域のことであり、通常はラベル内の最も細いバーまたはスペースの幅の10倍になります。このプロパティは、EAN/UPCの読み取りコード全体およびアドオンに適用されます。



UPC/EANのクワイエットゾーン=2モジュール



UPC/EANのクワイエットゾーン=3モジュール



UPC/EANのクワイエットゾーン=4モジュール



UPC/EANのクワイエットゾーン=5モジュール



UPC/EANのクワイエットゾーン=6モジュール



UPC/EANのクワイエットゾーン=7モジュール



UPC/EANのクワイエットゾーン=8モジュール



## アドオン

オプションおよび条件付きのアドオンの高度なプログラミングについては、HPのサポート窓口にお問い合わせください。

### オプションのアドオン

以下のアドオン(追加バーコード)を必要に応じてスキャナーで読み取れるようにできます。



UPC/EANのベースラベルおよびアドオンの両方がデコードされた場合、スキャナーによってベースラベルおよびアドオンが送信されます。UPC/EANのベースラベルがアドオンなしでデコードされた場合、そのベースラベルがアドオンなしで送信されます。

条件付きのアドオン設定(有効な場合)は、オプションのアドオン設定の前にスキャナーによって判定されます。

初期設定



オプションのアドオン=P2が無効



オプションのアドオン=P2が有効

初期設定



オプションのアドオン=P5が無効



オプションのアドオン=P5が有効

初期設定



オプションのアドオン=GS1-128が無効



オプションのアドオン=GS1-128が有効



## オプションのアドオンのタイマー

このオプションは、アドオン フラグメントが確認されていて、オプションのアドオンが有効になっているときに、スキャナーでそのアドオンが検索される時間を設定します (77ページの「オプションのGS1-128アドオンのタイマー」も参照してください)。



オプションのアドオンのタイマー=10ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=20ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=30ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=40ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=50ミリ秒

## オプションのアドオンのタイマー（続き）



オプションのアドオンのタイマー=60ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=70ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=100ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=120ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=140ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=160ミリ秒



## オプションのアドオンのタイマー（続き）



オプションのアドオンのタイマー=180ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=200ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=220ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=240ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=260ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=280ミリ秒



オプションのアドオンのタイマー=300ミリ秒



## オプションのGS1-128アドオンのタイマー

このオプションは、EAN/UPCの線形部分の読み取り後に追加部分を読み取るためのタイマーの有効期限値を設定します。GS1-128以外の種類のUPC/EANアドオンについては、74ページの「オプションのアドオンのタイマー」を参照してください。



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=無効



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=10ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=20ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=30ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=40ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=50ミリ秒



## オプションのGS1-128アドオンのタイマー（続き）



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=60ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=70ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=100ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=120ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=140ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=160ミリ秒

## オプションのGS1-128アドオンのタイマー（続き）



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=180ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=200ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=220ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=240ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=260ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=280ミリ秒



オプションのGS1-128アドオンのタイマー=300ミリ秒



## Code 39

Code 39読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Code 39の有効/無効



Code 39=有効



Code 39=無効



### Code 39のチェックキャラクタの計算

このオプションを有効にすると、オプションのCode 39チェックキャラクタの計算および検証が有効または無効になります。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。



Code 39のチェックキャラクタの計算=計算しない



Code 39のチェックキャラクタの計算=標準チェックを計算



Code 39のチェックキャラクタの計算=モジュラス7チェックを計算





## Code 39のチェックキャラクタの計算（続き）



Code 39のチェックキャラクタの計算=  
イタリアの郵便チェックを有効にする



Code 39のチェックキャラクタの計算=  
Daimler Chryslerのチェックを有効にする

## Code 39のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Code 39のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。



Code 39のチェックキャラクタの送信=送信しない



Code 39のチェックキャラクタの送信=送信する





## Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信が有効または無効になります。



Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない



Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信=送信する

## Code 39 Full ASCII

Code 39文字からCode 39 Full ASCII文字への変換を有効または無効にします。



Code 39 Full ASCII=無効



Code 39 Full ASCII=有効



## Code 39のクワイエットゾーン

この機能は、Code 39ラベルのクワイエットゾーンの数指定します。クワイエットゾーンとは、バーコードの両端にある空白の領域のことであり、通常はラベル内の最も細いバーまたはスペースの幅の10倍になります。



Code 39のクワイエットゾーン=両側にクワイエットゾーン



Code 39のクワイエットゾーン=  
両側に小さなクワイエットゾーン



## Code 39の長さ制御

この機能は、Code 39読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Code 39の長さ制御=可変長



Code 39の長さ制御=固定長



## Code 39の長さ1の設定

この機能は、Code 39の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。0～50文字の長さを設定できます。

表3には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順については詳しくは、188ページを参照してください。

表3.Code 39の長さ1の設定の例

手順	操作	例			
		00文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定				
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 39の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Code 39の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

02=長さ1は2文字です



## Code 39の長さ2の設定

この機能は、Code 39の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれません。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

表4には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表4.Code 39の長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 39の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Code 39の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



## Code 32 (イタリアの医薬品コード)

Code 32(イタリアの医薬品コード)読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Code 32の有効/無効

このオプションを無効にすると、スキャナーでCode 32のバーコードが読み取られません。



Code 32=無効



Code 32=有効

### Code 32の機能設定の例外



Code 32用に以下の機能を設定するには、Code 39のそれぞれの設定を使用します。

83ページの「Code 39のクワイエットゾーン」

83ページの「Code 39の長さ制御」

### Code 32のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Code 32のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。



Code 32のチェックキャラクタの送信=送信しない



Code 32のチェックキャラクタの送信=送信する



## Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信

このオプションは、Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信を有効または無効にします。



Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない



Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信=送信する

## Code 39 CIP（フランスの医薬品）

Code 39 CIP読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Code 39 CIPの有効/無効

Code 39 CIPのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



Code 39 CIP=無効



Code 39 CIP=有効



## Code 39 LaPoste

Code 39 LaPoste読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Code 39 LaPosteの有効化/無効化

Code39 La Posteのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



Code 39 LaPoste=無効



Code 39 LaPoste=有効

## Code 128

Code 128読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Code 128の有効/無効

このオプションを無効にすると、スキャナーでCode 128のバーコードが読み取られません。



Code 128=無効



Code 128=有効







## Code 128からCode 39への拡張

このオプションは、Code 128ラベルをCode 39ラベルに拡張する機能を有効または無効にします。



Code 128からCode 39=拡張しない



Code 128からCode 39=拡張する

## Code 128のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Code 128のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。



Code 128のチェックキャラクタの送信=送信しない



Code 128のチェックキャラクタの送信=送信する



## Code 128の機能文字の送信

Code128のファンクション文字1、2、3、および4の送信を有効または無効にします。



Code 128の機能文字の送信=送信しない



Code 128の機能文字の送信=送信する

## Code 128のサブコード交換の送信

「サブコード交換」文字の送信（標準デコードでは送信されない）を有効または無効にします。



Code 128のサブコード交換の送信=無効



Code 128のサブコード交換の送信=有効



## Code 128のクワイエットゾーン

この機能は、Code 128ラベルのクワイエットゾーンの数指定します。クワイエットゾーンとは、バーコードの両端にある空白の領域のことであり、通常はラベル内の最も細いバーまたはスペースの幅の10倍になります。



Code 128のクワイエットゾーン=両側にクワイエットゾーン



Code 128のクワイエットゾーン=  
両側に小さなクワイエットゾーン



## Code 128の長さ制御

この機能は、Code 128読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Code 128の長さ制御=可変長



Code 128の長さ制御=固定長



## Code 128の長さ1の設定

Code 128の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。1～50文字の長さを設定できます。

表5には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順については詳しくは、188ページを参照してください。

表5.Code 128の長さ1の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	01文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 128の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「1」	「0」および「7」	「1」および「5」	「5」および「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Code 128の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



## Code 128の長さ2の設定

この機能は、Code 128の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表6には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順については詳しくは、188ページを参照してください。

表6.Code 128の長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 128の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「0」	「0」および「7」	「1」および「5」	「5」および「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Code 128の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



## GS1-128

GS1-128読み取りコード (USS-128、GTIN-128、UCC-128とも呼ばれる) には、以下のオプションが適用されます。

### GS1-128の有効化

このオプションは、スキャナーでGS1-128ラベルをGS1-128データ フォーマットに変換する機能を有効または無効にします。次のオプションがあります。

- GS1-128ラベルをCode 128データ フォーマットで送信する
- GS1-128ラベルをGS1-128データ フォーマットで送信する
- GS1-128ラベルを送信しない



GS1-128=Code 128データ フォーマットで送信



GS1-128=GS1-128データ フォーマットで送信



GS1-128 =GS1-128ラベルを送信しない

### GS1-128の2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベース ラベルをデコードする場合に2Dラベル コンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。



GS1-128の2Dコンポーネント=無効



GS1-128の2Dコンポーネント=有効

## Code ISBT 128

ISBT 128読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### ISBT 128の連結

このオプションを使用すると、ISBT128の2つのラベルの連結が有効または無効になります。



初期設定



ISBT 128の連結=無効



ISBT 128の連結=有効

### ISBT 128の強制連結

この機能を有効にすると、ISBTの連結が強制的に行われます。



このオプションは、**ISBT 128の連結が有効になっている場合にのみ有効**です。



初期設定



ISBT 128の強制連結=無効



ISBT 128の強制連結=有効



## ISBT 128の連結モード

連結モード（静的、動的のどちらか）を指定します。



このオプションは、「ISBT 128の連結」が有効になっている場合にのみ有効です（95ページの「ISBT 128の連結」を参照してください）。



ISBT 128の連結モード=静的



ISBT 128の連結モード=動的



## ISBT 128の動的連結のタイムアウト

ISBT 128の動的連結モードで使用されるタイムアウトを指定します。



ISBT 128の動的連結のタイムアウト=50ミリ秒



ISBT 128の動的連結のタイムアウト=100ミリ秒



ISBT 128の動的連結のタイムアウト=200ミリ秒



ISBT 128の動的連結のタイムアウト=500ミリ秒



ISBT 128の動的連結のタイムアウト=750ミリ秒



ISBT 128の動的連結のタイムアウト=1秒

## ISBT 128の高度な連結オプション



連結の対象となるラベルの種類のパアを設定するには、HPの設定アプリケーションを使用するか、またはHPのテクニカル サポート（[2ページを参照](#)）までお問い合わせください。



## Interleaved 2 of 5 (I2 of 5)

I2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### I2 of 5の有効/無効

このオプションを無効にすると、スキャナーでI2 of 5のバーコードが読み取られません。



I2 of 5=無効



I2 of 5=有効



## 12 of 5のチェックキャラクタの計算

このオプションは、オプションの12 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。これらの設定を組み合わせることも可能です。その場合は、HPの設定ユーティリティを使用するか、またはHPのテクニカルサポートまでお問い合わせください。



初期設定



12 of 5のチェックキャラクタの計算=無効



12 of 5のチェックキャラクタの計算=  
標準チェック (モジュラス10)



12 of 5のチェックキャラクタの計算=ドイツの小包のチェック



12 of 5のチェックキャラクタの計算=DHLのチェック



12 of 5のチェックキャラクタの計算=Daimler Chryslerのチェック



12 of 5のチェックキャラクタの計算=Boschのチェック



12 of 5のチェックキャラクタの計算=イタリアの郵便



## 12 of 5のチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、12 of 5のバーコードデータとともにチェックキャラクタが送信されます。



12 of 5のチェックキャラクタの送信=送信しない



12 of 5のチェックキャラクタの送信=送信する



## 12 of 5の長さ制御

この機能は、12 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



12 of 5長さ制御=可変長



12 of 5の長さ制御=固定長



## 12 of 5の長さ1の設定

この機能は、12 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。この長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。2～50文字（2文字単位）の長さを設定できます。

表7には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表7.12 of 5の長さ1の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	2文字	6文字	14文字	50文字
2	前を0で埋めて2桁の数値にする	02	06	14	50
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[12 of 5の長さ1の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「2」	「0」および「6」	「1」および「4」	「5」および「0」
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



12 of 5の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

06=長さ1は6文字です



## 12 of 5の長さ2の設定

この機能は、12 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。この長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表8には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表8.12 of 5の長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	この長さを無視する	4文字	14文字	50文字
2	前を0で埋めて2桁の数値にする	00	04	14	50
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[12 of 5の長さ2の設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「4」	「1」 および 「4」	「5」 および 「0」
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



12 of 5の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



## Follett 2 of 5

Follett 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Follett 2 of 5の有効化/無効化

Follett 2 of 5のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



Follett 2 of 5=有効



Follett 2 of 5=無効



## Standard 2 of 5

Standard 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Standard 2 of 5の有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでStandard 2 of 5のバーコードが読み取られません。



Standard 2 of 5=無効



Standard 2 of 5=有効

### Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算

このオプションは、オプションのStandard 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。



Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算=無効



Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算=有効



## Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信

この機能は、オプションのStandard 2 of 5チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。



Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信=送信しない



Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信=送信する



## Standard 2 of 5の長さ制御

この機能は、Standard 2 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Standard 2 of 5の長さ制御=可変長



Standard 2 of 5の長さ制御=固定長



## Standard 2 of 5の長さ1の設定

この機能は、Standard 2 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。1～50文字の長さを設定できます。

表9には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表9.Standard 2 of 5の長さ1の設定の例

手順	操作	例			
		01文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定				
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Standard 2 of 5の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「1」	「0」および「7」	「1」および「5」	「5」および「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Standard 2 of 5の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

08=長さ1は8文字です



## Standard 2 of 5の長さ2の設定

この機能は、Standard 2 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表10には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表10.Standard 2 of 5の長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定（前を0で埋める）	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Standard 2 of 5の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「0」	「0」および「7」	「1」および「5」	「5」および「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Standard 2 of 5の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



## Industrial 2 of 5

Industrial 2 of 5読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Industrial 2 of 5の有効化/無効化

Industrial 2 of 5のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

初期設定



Industrial 2 of 5=無効



Industrial 2 of 5=有効

### Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算

オプションのIndustrial 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。

初期設定



Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算=無効



Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算=有効



## Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信

Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。



Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信=無効



Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信=有効

## Industrial 2 of 5の長さ制御

この機能は、Industrial 2 of 5読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Industrial 2 of 5の長さ制御=可変長



Industrial 2 of 5=固定長



## Industrial 2 of 5の長さ1の設定

この機能は、Industrial 2 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。0~50文字の長さを設定できます。

表11には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表11.Industrial 2 of 5の長さ1の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Industrial 2 of 5の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Industrial 2 of 5の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



## Industrial 2 of 5の長さ2の設定

この機能は、Industrial 2 of 5の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表12には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。

表12.Industrial 2 of 5の長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Industrial 2 of 5の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Industrial 2 of 5の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



## Code IATA

IATA読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### IATAの有効化/無効化

IATAのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



IATA=有効



IATA=無効

### IATAのチェックキャラクタの送信

オプションのIndustrial 2 of 5チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。



IATAのチェックキャラクタの送信=無効



IATAのチェックキャラクタの送信=有効





## CODABAR

Codabar読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Codabarの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでCodabarのバーコードが読み取られません。


 初期設定


Codabar=無効



Codabar=有効

### Codabarのチェックキャラクタの計算

このオプションを有効にすると、オプションのCodabarチェックキャラクタの計算および検証が有効または無効になります。このオプションを無効にすると、ラベル内のすべてのチェックキャラクタがデータ文字として扱われます。


 初期設定


Codabarのチェックキャラクタの計算=計算しない



Codabarのチェックキャラクタの計算=  
AIM標準チェックキャラクタを有効にする



Codabarのチェックキャラクタの計算=  
モジュラス10のチェックキャラクタを有効にする



## Codabarのチェックキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Codabarのバーコード データとともにチェックキャラクタが送信されます。



Codabarのチェックキャラクタの送信=送信しない



Codabarのチェックキャラクタの送信=送信する

## Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信

このオプションを有効にすると、Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信が有効または無効になります。



Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信=送信しない



Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信=送信する



## Codabarのスタート/ストップキャラクタセット

このオプションは、送信されるCodabarのスタート/ストップキャラクタのフォーマットを指定します。



Codabarのチェックキャラクタセット=ABCD/TN\*E



Codabarのチェックキャラクタセット=ABCD/ABCD



Codabarのチェックキャラクタセット=abcd/tn\*e



Codabarのチェックキャラクタセット=abcd/abcd



## Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致

このオプションを有効にすると、スタートキャラクタとストップキャラクタの一致が必要になります。



Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致=一致の必要なし



Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致=一致が必要



## Codabarのクワイエットゾーン

この機能は、Codabarラベルのクワイエットゾーンの数指定します。クワイエットゾーンとは、バーコードの両端にある空白の領域のことであり、通常はラベル内の最も細いバーまたはスペースの幅の10倍になります。



Codabarのクワイエットゾーン=  
両側にクワイエットゾーン



Codabarのクワイエットゾーン=  
両側に小さなクワイエットゾーン



## Codabarの長さ制御

この機能は、Codabar読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Codabarの長さ制御=可変長



Codabarの長さ制御=固定長



## Codabarの長さ1の設定

この機能は、Codabarの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのスタートキャラクタ、ストップキャラクタ、チェックキャラクタ、およびデータ文字列が含まれます。少なくとも1つのデータ文字を含める必要があります。3～50文字の長さを設定できます。

表13には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表13.Codabarの長さ1の設定の例

手順	操作	例			
		03文字	09文字	15文字	50文字
1	目的の設定（前を0で埋める）	03文字	09文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Codabarの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「3」	「0」 および 「9」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Codabarの長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

03=長さ1は3文字です



## Codabarの長さ2の設定

この機能は、Codabarの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのスタートキャラクタ、ストップキャラクタ、チェックキャラクタ、およびデータ文字列が含まれます。少なくとも1つのデータ文字を含める必要があります。

3～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表14には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表14.Codabarの長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定（前を0で埋める）	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Codabarの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Codabarの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です

## ABC Codabar

ABC Codabar読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### ABC Codabarの有効化/無効化

ABC Codabarのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



初期設定



ABC Codabar=無効



ABC Codabar=有効

### ABC Codabarの連結モード

連結モード（静的、動的のどちらか）を指定します。



初期設定



ABC Codabarの連結モード=静的



ABC Codabarの連結モード=動的



## ABC Codabarの動的連結のタイムアウト

ABC Codabarの動的連結モードで使用されるタイムアウト値を10ミリ秒単位で指定します。



ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=50ミリ秒



ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=100ミリ秒



ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=200ミリ秒



ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=500ミリ秒



ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=750ミリ秒



ABC Codabarの動的連結のタイムアウト=1秒





## ABC Codabarの強制連結

Dで始まるラベルまたはDで終わるラベルを強制的に連結します。



ABC Codabarの強制連結=無効



ABC Codabarの強制連結=有効



## Code 11

Code 11読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Code 11の有効/無効

このオプションを無効にすると、スキャナーでCode 11のバーコードが読み取られません。



Code 11=無効



Code 11=有効

### Code 11のチェックキャラクタの計算

このオプションは、オプションのCode 11チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。



Code 11のチェックキャラクタの計算=無効



Code 11のチェックキャラクタの計算=Cをチェック



Code 11のチェックキャラクタの計算=Kをチェック



Code 11のチェックキャラクタの計算=CおよびKをチェック



## Code 11のチェックキャラクタの送信

この機能は、オプションのCode 11チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。



## Code 11の長さ制御

この機能は、Code 11読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。





## Code 11の長さ1の設定

この機能は、Code 11の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。2～50文字の長さを設定できます。

表15には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表15.Code 11の長さ1の設定の例

手順	操作	例			
		02文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定 (前を0で埋める)	02文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 11の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から 3つの文字をスキャン	「0」 および 「2」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Code 11の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

04=長さ1は4文字です



## Code 11の長さ2の設定

この機能は、Code 11の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタおよびデータ文字列が含まれます。

2～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表16には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表16.Code 11の長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定（前を0で埋める）	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 11の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「デンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「0」	「0」および「7」	「1」および「5」	「5」および「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Code 11の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



## GS1 DataBar Omnidirectional

GS1 DataBar Omnidirectional（以前のRSS-14）読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### GS1 DataBar Omnidirectionalの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar Omnidirectionalのバーコードが読み取られません。



### GS1 DataBar OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション

このオプションを有効にすると、GS1 DataBar OmnidirectionalのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。





## GS1 DataBar Omnidirectionalの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。



GS1 DataBar Omnidirectionalの2Dコンポーネント=無効 (2Dコンポーネントは不要)



GS1 DataBar Omnidirectionalの2Dコンポーネント=2Dコンポーネントをデコードする必要がある

## GS1 DataBar Expanded

GS1 DataBar Expanded (以前のRSS Expanded) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### GS1 DataBar Expandedの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar Expandedのバーコードが読み取られません。



GS1 DataBar Expanded=無効



GS1 DataBar Expanded=有効





## GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション

このオプションを有効にすると、GS1 DataBar ExpandedバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。



GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション=無効



GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション=有効

## GS1 DataBar Expandedの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。



GS1 DataBar Expandedの2Dコンポーネント=無効



GS1 DataBar Expandedの2Dコンポーネント=有効



## GS1 DataBar Expandedの長さ制御

この機能は、GS1 DataBar Expanded読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



GS1 DataBar Expandedの長さ制御=可変長



GS1 DataBar Expandedの長さ制御=固定長



## GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定

この機能は、GS1 DataBar Expandedの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長(可変長モードの場合)、または1つ目の固定長(固定長モードの場合)です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。1~74文字の長さを設定できます。

表17には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表17.GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定の例

手順	操作	例			
		01文字	07文字	52文字	74文字
1	目的の設定	01文字	07文字	52文字	74文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「1」	「0」および「7」	「5」および「2」	「7」および「4」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



## GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定

この機能は、GS1 DataBar Expandedの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長(可変長モードの場合)、または2つ目の固定長(固定長モードの場合)です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。1~74文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます(固定長は1つのみ)。

表18には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表18.GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00 (2つ目の長さを無視する)	07文字	52文字	74文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「7」	「5」 および 「2」	「7」 および 「4」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

74=長さ2は74文字です



## GS1 DataBar Limited

GS1 DataBar Limited (以前のRSS Limited) 読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### GS1 DataBar Limitedの有効化/無効化

このオプションを無効にすると、スキャナーでGS1 DataBar Limitedのバーコードが読み取られません。



GS1 DataBar Limited=無効



GS1 DataBar Limited=有効

### GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション

このオプションを有効にすると、GS1 DataBar LimitedのバーコードがGS1-128ラベルのデータフォーマットに変換されます。



GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション=無効



GS1 DataBar LimitedのGS1-128エミュレーション=有効

## GS1 DataBar Limitedの2Dコンポーネント

この機能は、この読み取りコードのベースラベルをデコードする場合に2Dラベルコンポーネントをデコードする必要があるかどうかを指定します。



GS1 DataBar Limitedの2Dコンポーネント=無効 (2Dコンポーネントは不要)



GS1 DataBar Limitedの2Dコンポーネント=2Dコンポーネントのデコードが必要

## Code 93

Code 93読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Code 93の有効/無効

Code 93のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



Code 93=無効



Code 93=有効





## Code 93のチェックキャラクタの計算

オプションのCode 93チェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。



Code 93のチェックキャラクタの計算=無効



Code 93のチェックキャラクタの計算=Cのチェックを有効にする



Code 93のチェックキャラクタの計算=Kのチェックを有効にする



Code 93のチェックキャラクタの計算=CおよびKのチェックを有効にする

初期設定

## Code 93のチェックキャラクタの送信

オプションのCode 93チェックキャラクタの送信を有効または無効にします。



Code 93のチェックキャラクタの送信=無効



Code 93のチェックキャラクタの送信=有効

初期設定

## Code 93の長さ制御

この機能は、Code 93読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Code 93の長さ制御=可変長



Code 93=固定長



## Code 93の長さ1の設定

Code 93の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。01～50文字の長さを設定できます。

表19には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表19.Code 93の長さ1の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	01文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 93の長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「1」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Code 93の長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です





## Code 93の長さ2の設定

この機能は、Code 93の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれません。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表20には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表20.Code 93の長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Code 93の長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「0」	「0」および「7」	「1」および「5」	「5」および「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Code 93の長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です



## Code 93のクワイエットゾーン

Code 93のクワイエットゾーンを有効または無効にします。



Code 93のクワイエットゾーン=両側にクワイエットゾーン



Code 93のクワイエットゾーン=  
両側に小さなクワイエットゾーン



## MSI

MSI読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### MSIの有効化/無効化

MSIのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



MSI=無効



MSI=有効



## MSIのチェックキャラクタの計算

オプションのMSIチェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。



MSIのチェックキャラクタの計算=無効



MSIのチェックキャラクタの計算=Mod10を有効にする



MSIのチェックキャラクタの計算=Mod11/10を有効にする



MSIのチェックキャラクタの計算=Mod10/10を有効にする

## MSIのチェックキャラクタの送信

MSIのチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。



MSIのチェックキャラクタの送信=無効



MSIのチェックキャラクタの送信=有効



## MSIの長さ制御

この機能は、MSI読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



MSIの長さ制御=可変長



MSI=固定長



## MSIの長さ1の設定

この機能は、MSIの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。01～50文字の長さを設定できます。

表21には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表21.MSIの長さ1の設定の例

手順	操作	例			
		01文字	07文字	15文字	50文字
1	目的の設定				
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[MSIの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「1」	「0」および「7」	「1」および「5」	「5」および「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



MSIの長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



## MSIの長さ2の設定

この機能は、MSIの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表22には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表22.MSIの長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[MSIの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



MSIの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です

## Plessey

Plessey読み取りコードには、以下のオプションが適用されます。

### Plesseyの有効化/無効化

Plesseyのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



Plessey=無効



Plessey=有効

### Plesseyのチェックキャラクタの計算

オプションのPlesseyチェックキャラクタの計算および検証を有効または無効にします。



Plesseyのチェックキャラクタの計算=無効



Plesseyのチェックキャラクタの計算=  
Plessey標準チェックキャラクタの検証を有効にする



Plesseyのチェックキャラクタの計算=  
Ankerチェックキャラクタの検証を有効にする



Plesseyのチェックキャラクタの計算=  
Plessey標準チェックキャラクタおよび  
Ankerチェックキャラクタの検証を有効にする



## Plesseyのチェックキャラクタの送信

MSIのチェックキャラクタの送信を有効または無効にします。



Plesseyのチェックキャラクタの送信=有効



Plesseyのチェックキャラクタの送信=無効



## Plesseyの長さ制御

この機能は、Plessey読み取りコードの可変長のデコードまたは固定長のデコードのどちらかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Plesseyの長さ制御=可変長



Plessey=固定長





## Plesseyの長さ1の設定

この機能は、Plesseyの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。01～50文字の長さを設定できます。

表23には、長さ1の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表23.Plesseyの長さ1の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	01文字	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Plesseyの長さ1の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「1」	「0」および「7」	「1」および「5」	「5」および「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Plesseyの長さ1の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

01=長さ1は1文字です



## Plesseyの長さ2の設定

この機能は、Plesseyの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれます。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。

1～50文字の長さを設定できます。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

表24には、長さ2の設定の例がいくつか示されています。この機能の設定手順について詳しくは、188ページを参照してください。

表24.Plesseyの長さ2の設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	00（この長さを無視する）	07文字	15文字	50文字
2	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
3	[Plesseyの長さ2の設定の選択]をスキャン				
4	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「7」	「1」 および 「5」	「5」 および 「0」
5	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



Plesseyの長さ2の設定の選択

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

50=長さ2は50文字です

# 2D読み取りコード

## 2Dのグローバル機能

- 2Dの最大デコード時間 (148ページ)
- 2Dの通常/反転読み取りコード制御 (149ページ)
- 2Dの構造的接続 (149ページ)

## 2D読み取りコード

このスキャナーは、以下の2D読み取りコード（バーコードの種類）に対応しています。この章では、各読み取りコードの、読み取りコードに依存するオプションについて説明します。1Dバーコードの設定については、57ページからの「1Dコードの選択」を参照してください。

- Aztec Code (150ページ)
- China Sensible Code (153ページ)
- Data Matrix (156ページ)
- Maxicode (159ページ)
- PDF417 (162ページ)
- Micro PDF417 (165ページ)
- QR Code (168ページ)
- Micro QR Code (171ページ)
- UCC Composite (174ページ)
- 郵便コードの選択 (176ページ)



スキャナーを白黒反転イメージの2Dバーコードに使用できるようにするには、54ページの「白黒反転イメージのデコード」を参照してください。

## 2Dのグローバル機能

以下の機能は、利用可能なすべての（場合によってはほとんどの）2D読み取りコードに共通するものです。各機能またはオプションの初期設定は、緑色の矢印で示されています。また、最も一般的に使用されている標準の工場出荷時設定の一覧については、付録B「標準の初期設定」を参照してください。このセクションには、お使いのシステムに必要なだったり、導入したりするカスタムの設定も記載されています。

大部分の機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 該当するプログラミング ページの一番上にある[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 目的のプログラミング機能またはパラメーターを設定するためのバーコードをスキャンします。スキャン対象のバーコードのみがスキャナーで確実に読み取られるように、そのページおよび（場合によっては）見開きページ上の使用しないバーコードを隠す必要が生じる場合があります。
3. その他の入力パラメーターが必要な場合は、付録D「テンキー」に進み、テンキーの適切な文字をスキャンします。



多くの機能に関する追加情報は、「リファレンス」の章に記載されています。

最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

一連のプログラミング手順を完了します。このためには、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを終了します。



## 2Dの最大デコード時間

この機能は、ソフトウェアで2Dラベルのデコードに費やされる最大時間を指定します。選択可能な範囲は、10ミリ秒～2.55秒です。



2Dの最大デコード時間=100ミリ秒



2Dの最大デコード時間=200ミリ秒



2Dの最大デコード時間=350ミリ秒



2Dの最大デコード時間=500ミリ秒



2Dの最大デコード時間=1秒



2Dの最大デコード時間=2秒



2Dの最大デコード時間=2.55秒

## 2Dの構造的接続

スキャナーで複数の2Dコードのラベルを構造化フォーマットで連結する機能を有効または無効にします。この構造的接続プロパティは、以下の読み取りコード全体に適用されます(これらの読み取りコードが有効になっている場合)。

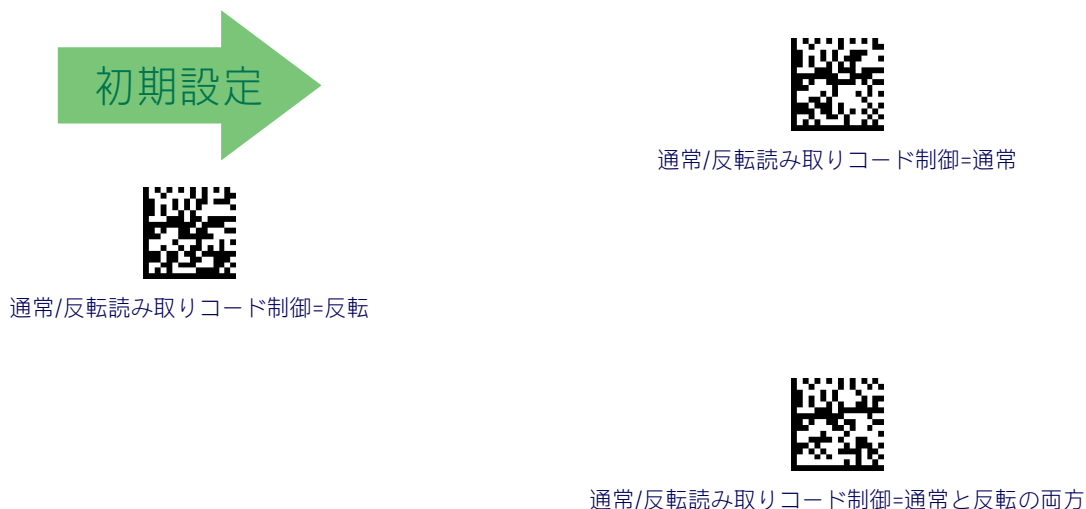
- Data Matrix
- QR Code
- Aztec
- PDF 417



## 2Dの通常/反転読み取りコード制御

通常印刷または白黒反転印刷された2D読み取りコードのデコードに利用できるオプションを指定します。この設定項目は、AIM規格の仕様に従って通常/反転読み取りコードのデコード機能をサポートしている2D読み取りコード全体 (Data Matrix、QR、MicroQR、Aztec、およびChinese Sensible Code) に適用されます。

すべての読み取りコード(線形読み取りコードを含む)をデコードするには、54ページの「白黒反転イメージのデコード」を参照してください。





## Aztecコード

### Aztec Codeの有効化/無効化

Aztec Codeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



Aztec Code=有効



Aztec Code=無効



### Aztec Codeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Aztec Codeの長さ制御=可変長



Aztec Codeの長さ制御=固定長



## Aztec Codeの長さ1の設定

Aztec Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～3,832文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Aztec Codeの長さ1の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

0001=長さ1は1文字です



## Aztec Codeの長さ2の設定

この機能は、Aztec Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～3,832文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Aztec Codeの長さ2の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

長さ2は3,832文字です



## China Sensible Code

### China Sensible Codeの有効化/無効化

China Sensible Codeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



China Sensible Code=無効



China Sensible Code=有効

### China Sensible Codeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



China Sensible Codeの長さ制御=可変長



China Sensible Codeの長さ制御=固定長



## China Sensible Codeの長さ1の設定

China Sensible Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～7,827文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



China Sensible Codeの長さ1の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

0001=長さ1は1文字です



## China Sensible Codeの長さ2の設定

この機能は、China Sensible Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～7,827文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



China Sensible Codeの長さ2の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

長さ2は7,827文字です



## Data Matrix

### Data Matrixの有効化/無効化

Data Matrixのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

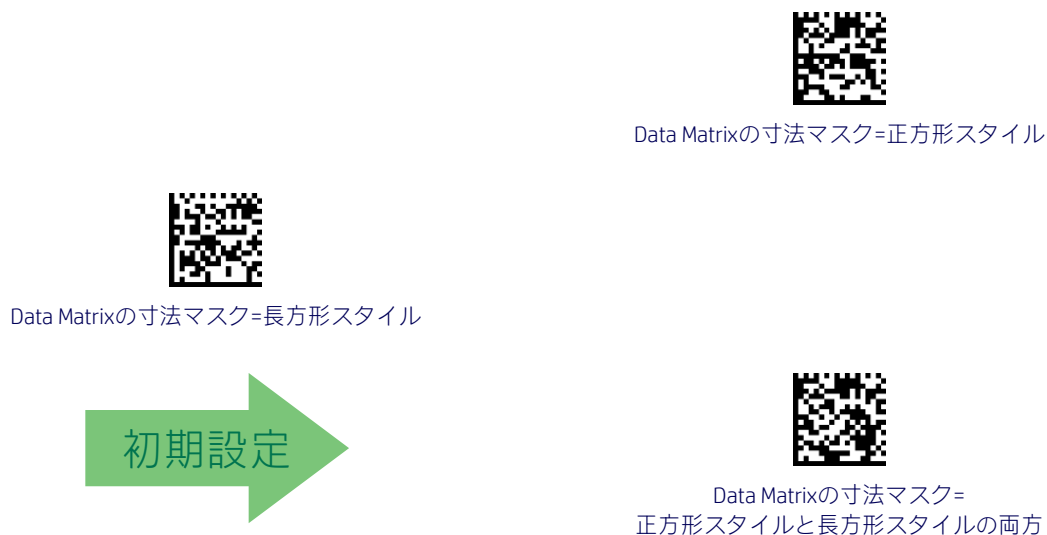


### Data Matrixの正方形/長方形スタイル

異なるフォーム ファクターを持つData Matrixを読み取る場合に利用可能なオプションを指定します。以下のオプションを選択できます。

- 正方形スタイル
- 長方形スタイル
- 正方形スタイルと長方形スタイルの両方

また、この設定項目は、異なる読み取りコード サイズおよび形状スタイルを持つ1つまたは複数のData Matrixラベルをフィルタリングするビット マスクとして設定することもできます。





## Data Matrixの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Data Matrixの長さ制御=可変長



Data Matrixの長さ制御=固定長

## Data Matrixの長さ1の設定

Data Matrixの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～3,116文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Data Matrixの長さ1の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



0001=長さ1は1文字です



## Data Matrixの長さ2の設定

この機能は、Data Matrixの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～3,116文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Data Matrixの長さ2の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

長さ2は3,116文字です

## Maxicode

### Maxicodeの有効化/無効化

Maxicodeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



Maxicode=有効



Maxicode=無効

### Maxicodeのプライマリメッセージの送信

セカンダリメッセージを読み取れない場合のプライマリメッセージのみの送信を有効または無効にします。



Maxicodeのプライマリメッセージの送信=有効



Maxicodeのプライマリメッセージの送信=無効



## Maxicodeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Maxicodeの長さ制御=可変長



Maxicodeの長さ制御=固定長

## Maxicodeの長さ1の設定

Maxicodeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～0145文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Maxicodeの長さ1の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



0001=長さ1は1文字です





## Maxicodeの長さ2の設定

この機能は、Maxicodeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～0145文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Maxicodeの長さ2の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

長さ2は0145文字です



## PDF417

### PDF417の有効化/無効化

PDF417のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



PDF417=有効



PDF417=無効



### PDF417の長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



PDF417の長さ制御=可変長



PDF417の長さ制御=固定長



## PDF417の長さ1の設定

PDF417の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。文字数は、0001～2,710文字の範囲で01単位で設定できます（前を0で埋めます）。2,710よりも大きい値はすべて2,710とみなされます。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



PDF417の長さ1の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

0001=長さ1は1文字です



## PDF417の長さ2の設定

この機能は、PDF417の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのチェックキャラクタ、データ文字列、およびFull ASCIIのシフト文字が含まれません。この長さにスタート/ストップキャラクタは含まれません。文字数は、01～2,710文字の範囲で01単位で設定できます（前を0で埋めます）。2,710よりも大きい値はすべて2,710とみなされます。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



PDF417の長さ2の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

長さ2は2,710文字です

## Micro PDF417

### Micro PDF417の有効化/無効化

Micro PDF417のラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

  
初期設定

Micro PDF417=無効



Micro PDF417=有効

### Micro PDF417のCode 128/GS1-128エミュレーション

Code 128またはGS1-128エミュレーションを行うときにMicroPDFラベルで使用するAIM IDを指定します。

エミュレーションの選択肢は以下のとおりです。

- Micro PDFのAIM IDおよびラベルの種類
- Code 128/EAN128のAIM IDおよびラベルの種類

  
初期設定

Micro PDF417のCode 128/GS1-128エミュレーション=  
Micro PDFのAIM IDおよびラベルの種類



Micro PDF417のCode 128/GS1-128エミュレーション=  
Code 128/EAN128のAIM IDおよびラベルの種類



## Micro PDF417の長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Micro PDF417の長さ制御=可変長



Micro PDF417の長さ制御=固定長

## Micro PDF417の長さ1の設定

Micro PDF417の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。文字数は、0001～0366文字の範囲で01単位で設定できます（前を0で埋めます）。0366よりも大きい値はすべて0366とみなされます。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Micro PDF417の長さ1の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル



0001=長さ1は1文字です



## Micro PDF417の長さ2の設定

この機能は、Micro PDF417の長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。文字数は、0001～0366文字の範囲で01単位で設定できます（前を0で埋めます）。0366よりも大きい値はすべて0366とみなされます。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Micro PDF417の長さ2の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

長さ2は0366文字です



## QR Code

### QR Codeの有効化/無効化

QR Codeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



### QR Codeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。







## QR Codeの長さ1の設定

QR Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～7,089文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



QR Codeの長さ1の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、付録D「テンキー」に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

0001=長さ1は1文字です



## QR Codeの長さ2の設定

この機能は、QR Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～7,089文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



QR Codeの長さ2の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

長さ2は7,089文字です

## Micro QRコード

### Micro QR Codeの有効化/無効化

Micro QR Codeのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



Micro QR Code=無効



Micro QR Code=有効

### Micro QR Codeの長さ制御

この機能は、この読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらを使用するかを指定します。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。



Micro QR Codeの長さ制御=可変長



Micro QR Codeの長さ制御=固定長



## Micro QR Codeの長さ1の設定

Micro QR Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～0035文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Micro QR Codeの長さ1の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

0001=長さ1は1文字です



## Micro QR Codeの長さ2の設定

この機能は、Micro QR Codeの長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。文字数は、0001～0035文字の範囲で0001単位で設定できます（前を0で埋めます）。

この機能の設定手順について詳しくは、[188ページ](#)を参照してください。



Micro QR Codeの長さ2の設定の選択

この機能を設定するには、上の[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンし、左側のバーコードをスキャンした後、[付録D「テンキー」](#)に記載されている英数字から、目的の文字を表す数字を指定します。最後に、[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします。

入力ミスをした場合：[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。



キャンセル

初期設定

長さ2は0035文字です



## UCC Composite

### UCC Compositeの有効化/無効化

UCC Compositeラベルのスタック部分をスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。



グローバルAIM IDが有効になっていると、この機能は有効でなくなります (30ページの「グローバルAIM ID」を参照してください)。



UCC Composite=有効



UCC Composite=無効



## UCCオプション コンポジット タイマー

システムが線形ラベルをアドオンなしで送信する前にUCC Compositeラベルのスタック部分を待つ時間を指定します。



UCCオプション コンポジット タイマー=タイマーが無効



UCCオプション コンポジット タイマー=100ミリ秒



UCCオプション コンポジット タイマー=200ミリ秒



UCCオプション コンポジット タイマー=300ミリ秒



UCCオプション コンポジット タイマー=400ミリ秒



UCCオプション コンポジット タイマー=500ミリ秒



## 郵便コードの選択

特定の郵便読み取りコードのラベルをスキャナーでデコードする機能を有効または無効にします。

- すべての郵便コードの無効化
- Postnet
- Planet
- 英国の郵便
- Kix
- オーストラリアの郵便
- 日本の郵便
- IMB
- スウェーデンの郵便
- ポルトガルの郵便



郵便コードの選択=すべての郵便コードを無効にする



郵便コードの選択=Postnetを有効にする



郵便コードの選択=Planetを有効にする



郵便コードの選択=Royal Mailを有効にする



郵便コードの選択=Kixを有効にする



郵便コードの選択=オーストラリアの郵便を有効にする



## 郵便コードの選択（続き）



郵便コードの選択=日本の郵便を有効にする



郵便コードの選択=IMBを有効にする



郵便コードの選択=スウェーデンの郵便を有効にする



郵便コードの選択=ポルトガルの郵便を有効にする

## PostnetのBB制御

PostnetラベルのBおよびB'フィールドをスキャナーでデコードする機能を制御します。



PostnetのBB制御=無効



PostnetのBB制御=有効

# メモ

# 第4章 リファレンス

このセクションには、一部のバーコード機能の説明および例が記載されています。スキャナーの設定に使用される実際のバーコードラベルについては、9ページからの「バーコードを使用した設定」を参照してください。

<b>USB-COMのパラメーター</b> (180ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>・文字間遅延</li><li>・ACK/NAKのオプション</li><li>・ACK文字</li><li>・NAK文字</li><li>・ACK/NAKのタイムアウト値</li><li>・ACK/NAKの再試行回数</li><li>・無効化文字</li><li>・有効化文字</li></ul>
<b>USBキーボードインターフェイス</b> (187ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>・コード間遅延</li></ul>
<b>読み取りコード</b> (188ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>・長さ設定</li></ul>
<b>データ編集</b> (189ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>・グローバルプレフィックス/サフィックス</li><li>・グローバルAIM ID</li><li>・ラベルID</li><li>・文字変換</li></ul>
<b>読み取り時のパラメーター</b> (198ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>・読み取り成功LEDの持続時間</li></ul>
<b>スキャン機能</b> (199ページから) <ul style="list-style-type: none"><li>・動作モード</li><li>・スキャン有効時間</li><li>・照準の持続時間タイマー</li></ul>
<b>読み取りコードによる複数ラベルの順序付け</b> (201ページから)

## USB-COMのパラメーター

### 文字間遅延

このパラメーターは、ある文字の末尾が送られてからその次の文字の先頭が送られるまでの文字間の遅延時間を指定します。遅延時間は、0（ゼロ）～990ミリ秒の範囲（10ミリ秒単位）で設定できます。0を設定すると、遅延なしになります。

遅延時間を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を10で割ります（設定は10ミリ秒単位です）。結果の前に0を埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを開始します。
4. 14ページを参照し、[文字間遅延設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表25を参照してください。

表25.文字間遅延設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	50ミリ秒	150ミリ秒	600ミリ秒	850ミリ秒
2	10で除算（前を0で埋めて2桁の数値にする）	05	15	60	85
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[文字間遅延設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「5」	「5」 および 「0」	「6」 および 「0」	「8」 および 「5」
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

## ACK/NAKオプション

このオプションは、スキャナーのACK/NAKプロトコルサポート機能を有効または無効にします。このオプションを設定すると、スキャナーまたはホストで、データを正しく受信すると「ACK」を送信し、データが間違っていると「NAK」を送信します。

次のオプションがあります。

- [Disable] (無効)
- ラベルの送信で有効：スキャナーで、ラベルの送信時にホストからのACK/NAK応答を待ちます。
- ホスト コマンドの確認応答で有効：ホストからコマンドが送信されたときにスキャナーでACK/NAK応答を送ります。
- ラベルの送信およびホスト コマンドの確認応答で有効

## ACK文字

この設定は、ACK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. 17ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]をスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [ACK文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして終了します。

この機能の設定方法のいくつかの例については、表26を参照してください。

表26.ACK文字設定の例

手順	操作	例			
1	目的の文字または値	ACK	\$	@	>
2	ASCII表から得られる同等の16進値	0x06	0x24	0x40	0x3E
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK文字設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「6」	「2」および「4」	「4」および「0」	「3」および「E」
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

## NAK文字

この設定は、NAK文字として使用するASCII文字または16進値を指定します。ASCII文字または0～0xFFの16進値を選択できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. 17ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [NAK文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表27を参照してください。

表27.NAK文字設定の例

手順	操作	例			
1	目的の文字または値	NAK	\$	@	>
2	ASCII表から得られる同等の16進値	0x15	0x24	0x40	0x3E
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[NAK文字設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「1」 および 「5」	「2」 および 「4」	「4」 および 「0」	「3」 および 「E」
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

## ACK NAKのタイムアウト値

このオプションは、ラベルの送信後にホストからACK文字が送られてくるまでスキャナーが待機する時間を指定します。選択できるタイムアウト値の範囲は、200～15,000ミリ秒（15秒）（200ミリ秒単位）です。0を選択すると、タイムアウトは無効になります。

この値を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。
2. 目的の設定を200で割ります（設定は200ミリ秒単位です）。結果の前に0を埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. 17ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [ACK NAKのタイムアウト値設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた待機時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表28を参照してください。

表28.ACK NAKのタイムアウト値設定の例

手順	操作	例			
		200ミリ秒	1,000ミリ秒 (1秒)	5,200ミリ秒 (5.2秒)	15,000ミリ秒 (15秒)
1	目的の設定	01	05	26	75
2	200で除算	01	05	26	75
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK NAKのタイムアウト値設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」および「1」	「0」および「5」	「2」および「6」	「7」および「5」
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

## ACK NAKの再試行回数

この機能は、再試行状態のためにスキャナーでラベルの送信を再試行する回数を指定します。選択できる再試行回数は1～254です。0を選択すると、再試行回数は無効になり、255を選択すると、再試行回数は無制限になります。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 数字の前に0を埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. 18ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [ACK NAKの再試行回数設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた数値を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表29を参照してください。

表29.ACK NAKの再試行回数設定の例

手順	操作	例			
		再試行回数の無効化	3回の再試行	54回の再試行	無制限の再試行
1	目的の設定				
2	前に0(ゼロ)を埋める	000	003	054	255
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[ACK NAKの再試行回数設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」、 「0」、 および「0」	[0]、[0]、 および[3]	「0」、 「5」、 および「4」	「2」、 「5」、 および「5」
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				



## 無効化文字

スキャナーを無効にするために使用するホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0～0xFFの16進値を選択できます。

この値を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字または値を決めます。0xFFの設定は、無効化文字が使用されない（利用不可である）ことを示します。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. 20ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを開始します。
4. [無効化文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順1で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ピープ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表30を参照してください。

表30.無効化文字設定の例

手順	操作	例			
1	目的の文字または値	「d」	「j」	「D」	無効化コマンドを使用しない
2	ASCII表から得られる同等の16進値	0x64	0x7D	0x44	0xFF
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[無効化文字値設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「6」 および 「4」	「7」 および 「D」	「4」 および 「4」	「F」 および 「F」
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

## 有効化文字

スキャナーを有効にするために使用するホスト コマンドの値を指定します。ASCII文字または0~0xFFの16進値を選択できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

目的の文字または値を決めます。0xFFの設定は、有効化文字が使用されない（利用不可である）ことを示します。

1. 目的の文字または値を決めます。
2. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を使用して、目的の文字または値を表す同等の16進値を見つけます。
3. [20ページ](#)を参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを開始します。
4. [有効化文字設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順2で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。2つ目の文字を入力すると、ビーブ音が2回鳴って通知されます。
6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、[表31](#)を参照してください。

表31.有効化文字設定の例

手順	操作	例			
1	目的の文字または値	「e」	「J」	「E」	有効化コマンドを使用しない
2	ASCII表から得られる同等の16進値	0x65	0x7D	0x45	0xFF
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[有効化文字値設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「6」 および 「5」	「7」 および 「D」	「4」 および 「5」	「F」 および 「F」
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

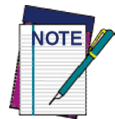
# USBキーボードインターフェイス

## コード間遅延

キーボード インターフェイスでホストに送信されるラベル間の遅延時間を指定します。選択できるこの機能の値は0～99秒です。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 数字の前に0を埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
3. [26ページ](#)を参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [コード間遅延設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた遅延時間を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、[表32](#)を参照してください。

表32.コード間遅延の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	遅延なし	5秒	60秒	99秒
2	前に0（ゼロ）を埋める	00	05	60	99
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[コード間遅延設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	「0」 および 「0」	「0」 および 「5」	「6」 および 「0」	「9」および「9」
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

# 読み取りコード

## 長さ設定

長さ制御を使用すれば、指定された読み取りコードで可変長デコードまたは固定長デコードのどちらかを選択できます。

**可変長**：可変長のデコードでは、最小および最大の長さを設定できます。

**固定長**：固定長のデコードでは、2つの異なる長さを設定できます。

### 長さ1の設定

この機能は、長さ制御のバーコード長の1つを指定します。長さ1は、最小のラベル長（可変長モードの場合）、または1つ目の固定長（固定長モードの場合）です。長さには、バーコードのデータ文字列のみが含まれます。

設定できる文字数は読み取りコードによって異なります。特定の変数について確認するには、選択した読み取りコードのページを参照してください。

1. 目的の文字長を決めます（読み取りコードによって異なります）。数字の前に0を埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
2. 選択した読み取りコードの長さ設定ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを開始します。
3. 選択した読み取りコードの「長さ1の設定を選択」するためのバーコードをスキャンします。
4. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた長さ設定を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

5. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

### 長さ2の設定

この機能では、指定された読み取りコードのバーコード長の1つを設定できます。長さ2は、最大のラベル長（可変長モードの場合）、または2つ目の固定長（固定長モードの場合）です。パラメーターについては、特定の読み取りコードのページを参照してください。

設定できる長さは読み取りコードによって異なります。0を設定すると、この長さは無視されます（固定長は1つのみ）。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の文字長を決めます（1～50。この長さを無視する場合は0）。数字の前に0を埋めて2桁の数値にします。例：0 = 00、5 = 05、20 = 20など
2. 選択した読み取りコードの長さ設定ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを開始します。

3. 選択した読み取りコードの「長さ2の設定を選択」するためのバーコードをスキャンします。
4. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた長さ設定を表す適切な2つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

5. [プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

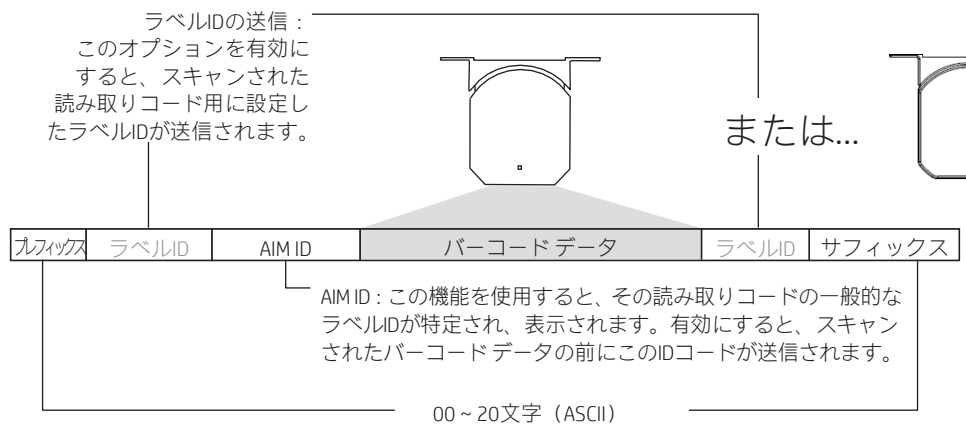
以上でこの手順は完了です。

## データ編集

バーコードをスキャンすると、バーコード データとともに追加情報をホスト コンピューターに送信できます。このバーコード データとユーザー定義の追加データの組み合わせを「メッセージ文字列」と呼びます。データ編集機能を使用すると、特定のユーザー定義データをメッセージ文字列に組み込むことができます。

スキャンされたデータの前後に送信できる数種類の選択可能なデータ文字列があります。これらのデータ文字列をすべての読み取りコードに付加して送信するか、特定の読み取りコードのみに付加して送信するかを指定できます。図1は、メッセージ文字列に付加できる使用可能な要素を示しています。

図1.メッセージ文字列の内訳



その他の高度な編集も利用できます。詳しくは、HPの設定ソフトウェアの高度なフォーマット機能を参照するか、またはテクニカル サポート (2ページを参照してください) までお問い合わせください。

### 以下のことにご注意ください...

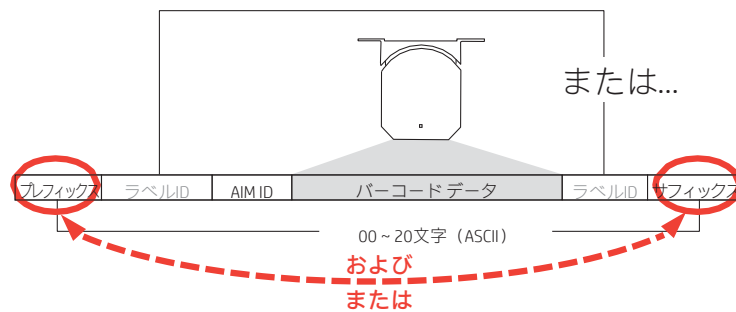
- メッセージ文字列の変更は必須条件ではありません。データ編集は、上級ユーザーにとってはカスタマイズ性の高い出力を可能にする優れた機能です。通常、データ編集の工場出荷時の設定は[NONE] (なし) になっています。

- プレフィックスまたはサフィックスは、指定された読み取りコード(57ページからの「1Dコードの選択」を参照してください) に対して適用することも、すべての読み取りコードにわたって適用(この章のグローバル機能を使用して設定)することもできます。
- このガイドの裏表紙の内側に記載されている「ASCII表」(00~FF)の任意の文字を、プレフィックス、サフィックス、またはラベルIDとして追加できます。
- プレフィックスおよびサフィックスは、出力に表示したい順序で入力します。

## グローバルプレフィックス/サフィックス

図2に示すように、最大20文字のASCII文字をプレフィックスとして(バーコードデータの前の位置に)、またはサフィックスとして(バーコードデータの後ろの位置に)追加できます。

図2.プレフィックスおよびサフィックスの位置



### 例：プレフィックスの設定

この例では、すべての読み取りコードにプレフィックスを設定します。

1. スキャンされたバーコードデータに追加するASCII文字を決めます。この例では、ドル記号(「\$」)をプレフィックスとして追加します。
2. 30ページを参照して[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてから、[グローバルプレフィックスの設定]バーコードをスキャンします。
3. このガイドの裏表紙の内側に記載されているASCII表を参照して、目的の文字に割り当てられている16進値を見つけます。「\$」文字に対応する16進数は24です。この選択コードを入力するには、付録D「テンキー」に記載されている[2]および[4]のバーコードをスキャンします。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

4. 想定された20文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして文字列を終了します。
5. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードもう一度スキャンして、プログラミングモードを終了します。
6. 結果として、以下のようなメッセージ文字列が表示されます。  
スキャンされたバーコードデータ：12345  
結果として出力されるメッセージ文字列：\$12345

## グローバルAIM ID



この機能は、すべての種類の読み取りコードを対象にAIM IDの追加を有効または無効にします。

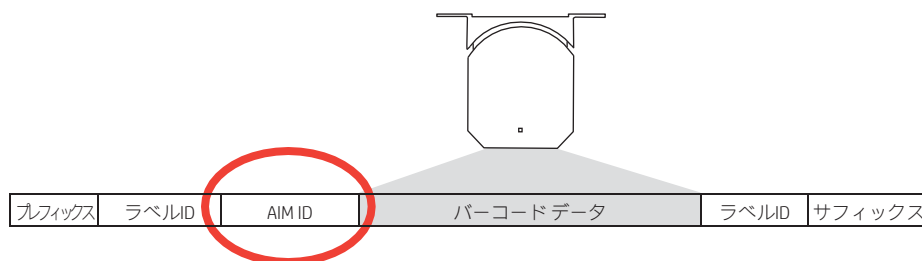
(ラベルIDのようにユーザー自身が選択するカスタム文字とは対照的に) AIMラベルIDをスキャンされたバーコードデータに付加できます。AIMラベルIDは、以下のように3つの文字で構成されます。

- 閉じ括弧文字 (ASCIIの「」)。この後に以下の文字が続きます。
- コード文字 (以下の表を参照してください)。この後に以下の文字が続きます。
- 修飾文字 (修飾文字は読み取りコードによって決まります)。

読み取りコード	文字	読み取りコード	文字
UPC/EAN	E <sup>a</sup>	Code 128/GS1-128	C
Code 39および Code 32	A	DataBar Omnidirectional、 DataBar Expanded	e
Codabar	F	Standard 2 of 5	S
Interleaved 2 of 5	I	ISBN	X <sup>b</sup>
Code 93	G	Code 11	H

- AIM IDの追加時に、UPC-AおよびUPC-EラベルはEAN 13に変換されます。
- ISBN (修飾文字0が付いたX)

図3.AIM ID



## ラベルID

ラベルIDは、最大3つのASCII文字（各文字は0x01～0xFFの16進値のどれか）で構成されるカスタマイズ可能なコードであり、バーコード（読み取りコード）の種類を識別するために使用されます。このオプションを有効にする方法に応じて、送信されるバーコード データの前または後ろにラベルIDを連結できます。この機能には、カスタムのラベルIDをプリロードされたセットとして設定するオプション（以下の「ラベルID：プリロードされたセット」を参照してください）、および読み取りコードごとに個別に設定するオプション（195ページの「ラベルID：読み取りコードごとに個別設定」を参照してください）が用意されています。すべての種類の読み取りコードで常に業界標準のラベルIDが組み込まれるようにスキャナーをプログラミングする場合は、30ページの「グローバルAIMID」を参照してください。

### ラベルID：プリロードされたセット

このスキャナーは、2つのプリロードされたラベルIDセットに対応しています。表33に、米国向けのセットおよび欧州向けのセットを示します。



注意

ラベルIDセットを別のものに変更すると、スキャナーの他のすべての設定（ホストのインターフェイスの種類を含む）が消去され、工場出荷時の標準設定にリセットされます。カスタム設定やカスタム初期設定はすべて失われます。

表33.プリロードされたラベルIDセット

読み取りコード	米国向けのラベルIDセット		欧州向けのラベルIDセット	
	初期設定の文字	初期設定のASCII	初期設定の文字	初期設定のASCII
ABC CODABAR	S	530000	S	530000
ANKER PLESSEY	o	6F0000	o	6F0000
AZTEC	Az	417A00	!	210000
CHINA SENSIBLE CODE	\$S	245300	\$S	245300
CODABAR	%	250000	R	520000
CODE11	CE	434500	b	620000
CODE128	#	230000	T	540000
CODE32	A	410000	X	580000
CODE39	*	2A0000	V	560000
CODE39 CIP	Y	590000	Y	590000
CODE39 DANISH PPT	\$Y	245900	\$Y	245900
CODE39 LAPOSTE	\$a	246100	\$a	246100



読み取りコード	米国向けのラベルIDセット		欧州向けのラベルIDセット	
	初期設定の文字	初期設定のASCII	初期設定の文字	初期設定のASCII
CODE39 PZN	\$Z	245A00	\$Z	245A00
CODE93	&	260000	U	550000
DATABAR 14	R4	523400	u	750000
DATABAR 14 COMPOSITE	R4	523400	c	523400
DATABAR EXPANDED	RX	525800	t	740000
DATABAR EXPANDED COMPOSITE	RX	525800	d	525800
DATABAR LIMITED	RL	524C00	v	760000
DATABAR LIMITED COMPOSITE	RL	524C00	i	524C00
DATA MATRIX	Dm	446D00	w	770000
EAN128		000000	k	6B0000
EAN128 COMPOSITE		000000	\$E	244500
EAN13	F	460000	B	420000
EAN13 P2	F	460000	L	4C0000
EAN13 P5	F	460000	M	4D0000
EAN13 COMPOSITE	F	460000	\$F	244600
EAN8	FF	464600	A	410000
EAN8 P2	FF	464600	J	4A0000
EAN8 P5	FF	464600	K	4B0000
EAN8 COMPOSITE	FF	464600	\$G	244700
FOLLET 20F5	O	4F0000	O	4F0000
GTIN	G	470000	\$A	244100
GTIN2	G2	473200	\$B	244200
GTIN5	G5	473500	\$C	244300
I20F5	i	690000	N	4E0000
IATA INDUSTRIAL 20F5	IA	494100	&	260000
INDUSTRIAL 20F5	W	570000	W	570000
ISBN	I	490000	@	400000
ISBT128 CONCAT	f	660000	f	660000
ISSN	n	6E0000	n	6E0000

読み取りコード	米国向けのラベルIDセット		欧州向けのラベルIDセット	
	初期設定の文字	初期設定のASCII	初期設定の文字	初期設定のASCII
MAXICODE	MC	4D4300	x	780000
MICRO QR	\$Q	245100	\$Q	245100
MICRO PDF	mP	6D5000	8	380000
MSI	@	400000	Z	5A0000
PDF417	P	500000	r	720000
PLESSEY	a	610000	a	610000
POSTAL AUSTRALIAN	\$K	244B00	\$K	244B00
POSTAL IMB	\$V	245600	\$V	245600
POSTAL JAPANESE	\$R	245200	\$R	245200
POSTAL KIX	\$U	245500	\$U	245500
POSTAL PLANET	\$W	245700	\$W	245700
POSTAL PORTUGAL	\$P	245000	\$P	245000
POSTAL POSTNET BB	\$L	244C00	\$L	244C00
POSTAL ROYAL MAIL	\$M	244D00	\$M	244D00
POSTAL SWEDISH	\$X	245800	\$X	245800
POSTNET	1	310000	1	310000
QR CODE	QR	515200	y	790000
S25	s	730000	P	500000
TRIOPTIC	\$T	245400	\$T	245400
UPCA	A	410000	C	430000
UPCA P2	A	410000	F	460000
UPCA P5	A	410000	G	470000
UPCA COMPOSITE	A	410000	\$H	244800
UPCE	E	450000	D	440000
UPCE P2	E	450000	H	480000
UPCE P5	E	450000	I	490000
UPCE COMPOSITE	E	450000	\$J	244A00

## ラベルID : 読み取りコードごとに個別設定

1つの読み取りコードのラベルIDを個別に設定するには、以下の操作を行います。

1. 34ページを参照して、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. 34ページの「ラベルIDの制御」セクションに記載されている適切なバーコードをスキャンして、ラベルIDの位置を前(プレフィックスとして有効にする)または後ろ(サフィックスとして有効にする)のどちらかに選択します。複数のID機能が有効になっている場合は、図4を参照してラベルIDの適切な位置を確認してください。
3. 35ページの「ラベルIDの読み取りコードの選択 : 1D読み取りコード」セクションに記載されているバーコードをスキャンして、カスタムのラベルIDを設定する読み取りコードを選択します。
4. 選択した読み取りコード用のラベルIDを表す目的の文字(3文字まで選択可能)を決めます。
5. このガイドの裏表紙の内側にある「ASCII表」を参照し、選択したラベルIDに関連付けられている同等の16進数を見つけます。たとえば、ラベルIDとして等号(=)を選択する場合、ASCII表にはそれに関連付けられた16進文字が3Dとして示されています。223ページからの「テンキー」を参照して、決定した16進文字を表すバーコードをスキャンします。上記の例では、「3」および「D」の文字をスキャンすることになります。ラベルID設定のその他の例は、表34に記載されています。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、ラベルIDの入力を終了します。
7. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードもう一度スキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上で、特定の読み取りコード用のラベルIDを設定する手順は完了です。

図4.ラベルIDの位置のオプション

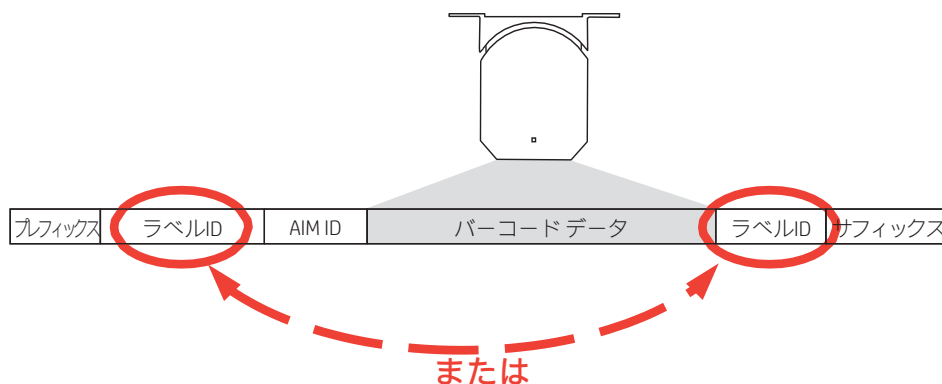


表34.ラベルIDの例

手順	操作	例			
1.	[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします	(スキャナーでプログラミングモードが開始されます)			
2.	34ページからの「ラベルIDの制御」を使用して、ラベルID文字をスキャンされたデータの前または後ろのどちらに配置するかを決めます	プレフィックスとして有効	サフィックスとして有効	プレフィックスとして有効	サフィックスとして有効
3.	35ページからの「ラベルIDの読み取りコードの選択：1D読み取りコード」を使用して、ラベルID文字を指定する読み取りコードの種類を選択するためのバーコードをスキャンします	DataBar Omnidirectional	Code 39	Interleaved 2 of 5	Code 32
4.	カスタムのラベルIDの例 (目的の文字):	DB*	=C3	+	PH
5.	ASCII表から同等の16進値を見つけ、223ページからの「テンキー」セクションのバーコードを使用してそれらの数字または文字をスキャンします。最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます	44 42 2A	3D 43 33	2B	50 48
6.	[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをスキャンします	(スキャナーでラベルIDの入力が終了します)			
7.	[プログラミングモードの開始/終了]バーコードをもう一度スキャンします	(スキャナーでプログラミングモードが終了します)			
	結果:	DB*[バーコードデータ]	[バーコードデータ]=C3	+ [バーコードデータ]	[バーコードデータ]PH

## 文字変換

文字変換は、8バイトの設定項目です。この8バイトは、16進のASCII値で表現される4つの文字ペアです。このペアの最初の文字は変換前の文字です。このペアの2つ目の文字は変換後の文字です。ペア内の変換後の文字が「FF」である場合、変換は行われません。

たとえば、文字変換の設定項目を41423132FFFFFFに設定してある場合は、以下のようになります。

最初のペアは4142、つまりAB（16進数の41はASCIIの大文字A、16進数の42はASCIIの大文字B）であり、2つ目のペアは3132、つまり12（16進数の31はASCIIの1、16進数の32はASCIIの2）です。その他のペアは、FFFFおよびFFFFです。

AB12BA21というラベルでは、文字変換後のラベルはBB22BB22となります。

文字Aは文字Bに変換され、文字1は文字2に変換されました。最後の2つの文字ペアはすべてFFなので、何も行われません。

文字変換を設定するには、以下の操作を行います。

1. [40ページ](#)を参照して、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンします。
2. [文字変換の設定]バーコードをスキャンします。
3. 目的の文字列を決めます。上記の例などの場合、16カ所の文字を決める必要があります。次に、このガイドの裏表紙の内側にある[ASCII表](#)を参照して、文字列を満たすために必要な同等の16進数を見つけます。
4. [付録D「テンキー」](#)を参照して、前の手順で決めた16進文字を表すバーコードをスキャンします。
5. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。



想定された16文字よりも少ない文字列を選択した場合は、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードを2回スキャンすることで、選択を受け入れてプログラミングモードを終了します。

## 読み取り時のパラメーター

### 読み取り成功のLEDの持続時間

この機能は、読み取りの成功後に読み取り成功を示すLEDがオンのままになる時間を指定します。読み取り成功LEDの持続時間は、100～25,550ミリ秒（0.1～25.5秒）の範囲（100ミリ秒単位）で設定できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定（ミリ秒）を決めます。0を設定すると、次回トリガーが引かれるまで読み取り成功のLEDがオンのままになります。
2. 目的の設定を10で割ります（設定は100ミリ秒単位です）。結果の前に0を埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. 48ページを参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [読み取り成功のLEDの持続時間設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、表35を参照してください。

表35.読み取り成功のLEDの持続時間設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	次のトリガーが引かれるまで読み取り成功のLEDがオンのまま (00)	200ミリ秒	1500ミリ秒	25,500ミリ秒 (25.5秒)
2	10で除算 (および前に0を埋める)	000	002	015	255
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[読み取り成功のLEDの持続時間設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から 3つの文字をスキャン	「0」、 「0」、 および 「0」	[0]、 [0]、 および [2]	「0」、 「1」、 および 「5」	「2」、 「5」、 および 「5」
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

## スキャン機能

### 動作モード

このスキャナーは、2つのスキャン(読み取り)モードで動作できます。また、読み取りフェーズが動作中でないときに、さまざまな異なる動作状態に合わせて照射を設定できます(オフ\*、減光、オン)。

**自動。**スキャンが常に有効になります。

**自動(オブジェクト検知)\*。**対象物がスキャナーの照射領域に入ると、自動的にスキャン機能が有効になります(初期設定)。

### スキャン有効時間

この設定は、スキャナーでスキャンが有効な状態になった後、その状態のままの時間を指定します。1~255秒の範囲(1秒単位)で設定できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 結果の前に0を埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. [49ページ](#)を参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [スキャン有効時間設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. [付録D「テンキー」](#)に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、[表36](#)を参照してください。

表36.スキャン有効時間設定の例

手順	操作	例			
1	目的の設定	1秒	90秒 (1.5分)	180秒 (3分)	255秒 (4.25分)
2	前に0(ゼロ)を埋める	001	090	180	255
3	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				
4	[スキャン有効時間設定の選択]をスキャン				
5	<a href="#">付録D「テンキー」</a> から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、 および[1]	[0]、[9]、 および[0]	[1]、[8]、 および[0]	[2]、[5]、および[5]
6	[プログラミングモードの開始/終了]をスキャン				

## 照準の持続時間タイマー

トリガー シングル モードのときに、ラベルのデコード後に照準ポインターがオンのままになる時間を指定します1～255秒の範囲（1秒単位）で設定できます。

この機能を設定するには、以下の操作を行います。

1. 目的の設定を決めます。
2. 結果の前に0を埋めて3桁の数値にします。例：0 = 000、5 = 005、20 = 020など
3. [53ページ](#)を参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミング モードを開始します。
4. [照準の持続時間タイマー設定の選択]バーコードをスキャンします。
5. 付録D「テンキー」に記載されているテンキーから、上記の手順で決めた持続時間を表す適切な3つの数字をスキャンします。最後の文字を入力すると、ビープ音が2回鳴って通知されます。



最後の文字の前に入力ミスをした場合は、[キャンセル]バーコードをスキャンして中止し、入力文字列が保存されないようにします。その後、最初から入力し直すことができます。

6. [プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンして、プログラミング モードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、[表37](#)を参照してください。

表37.照準の持続時間タイマー設定の例

手順	操作	例			
		1秒	90秒（1.5分）	180秒（3分）	255秒（4.25分）
1	目的の設定	1秒	90秒（1.5分）	180秒（3分）	255秒（4.25分）
2	前に0（ゼロ）を埋める	001	090	180	255
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[照準の持続時間タイマー設定の選択]をスキャン				
5	付録D「テンキー」から3つの文字をスキャン	[0]、[0]、 および[1]	「0」、「9」、 および「0」	「1」、「8」、 および「0」	「2」、「5」、および「5」
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				



## 読み取りコードによる複数ラベルの順序付け

この機能は、[フレームごとの複数ラベル]が有効になっている場合に、読み取りコードの種類による送信の順序付けを指定します。最大6つの読み取りコードを選択できます。6つの読み取りコードのすべてを使用しない場合は、0（ゼロ）を追加して文字列を12文字にする必要があります。

ラベルの順序はまず、出力マスクの指定に従って決定されます。ボリューム内に存在するが未指定のラベルは、未指定の読み取りコードとして、読み取り時のシーケンスで許可される任意の順序で送信されます。スキャナーは、ボリューム内でデコードされたラベルごとに、標準のピープ音およびLEDによる通知を行います。

読み取りコードの順序を指定するには、以下の操作を行います。

1. 指定する読み取りコードおよび順序を決めます。
2. [202ページの表39](#)に基づいて、最大6つの読み取りコードに対応する16進値を見つけます。
3. [56ページ](#)を参照し、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを開始します。
4. [複数ラベルの順序付けに使用する読み取りコードの選択]バーコードをスキャンします。
5. [付録D「テンキー」](#)に記載されているテンキーから、上記の手順2で決めた目的の文字または値を表す適切な2つの英数字をスキャンします。
6. 必要に応じてゼロをスキャンし、12文字の文字列にします。
7. 処理が完了したら、[プログラミング モードの開始/終了]バーコードをスキャンしてプログラミングモードを終了します。

以上でこの手順は完了です。この機能の設定方法のいくつかの例については、[表38](#)を参照してください。

表38.読み取りコードによる複数ラベルの順序付けの例

手順	操作	例			
1	目的の読み取りコード	Code 39	Data Matrix	Code 128	Aztec
2	<a href="#">表39</a> に基づく同等の16進値	24	0E	0C	4E
3	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				
4	[複数ラベルの順序付けに使用する読み取りコードの選択]をスキャン				
5	<a href="#">付録D「テンキー」</a> から3つの文字をスキャン	「2」および「4」	「0」および「E」	「0」および「C」	「4」および「E」
	結果	0x240E0C4E0000			
6	[プログラミング モードの開始/終了]をスキャン				

[202ページの表39](#)に、各読み取りコードに関連付けられた16進値を示します。

表39.読み取りコードの16進値

16進値	読み取りコードID	16進値	読み取りコードID
00	値なし	2A	GTIN
01	UPC-A	2B	GTIN2
02	UPC-E	2C	GTIN5
03	EAN8	2D	GTIN8
04	EAN13	2E	S20F5
0A	EAN128	2F	PDF417
0C	CODE128	30	CODE11
0D	FNC3_C128_LABEL	31	IATA
0E	DATA MATRIX	32	MICRO_PDF
0F	MAXICODE	33	GS1 DataBar_LIM_ID
10	QRCODE	34	GS1 DataBar_LIM_COMP
12	CODABLOCK_F	35	GS1 DataBar_Omnidirectional_COMP
13	CODE49	36	GS1 DataBar_EXP_COMP
14	UPC-E2	3D	CODE16K
15	UPC-E5	3E	MATRIX 20F5
16	UPC-E8	3F	DATABAR 20F5、CHINESE POST 20F5
17	UPC-A2	40	PLESSEY65
18	UPC-A5	42	ISSN
19	UPC-A8	43	ISBT
1A	EAN82	44	BC412
1B	EAN85	46	FOLLETT_20F5
1C	EAN88	47	CODE4
1D	EAN132	48	CODE5
1E	EAN135	49	CODE39_CIP
1F	EAN138	4A	ABC_CODABAR
20	ISBN_ID	4B	I20F5_CIP
21	TWO_LABEL_PAIR	4C	COMPRESSED 20F5
22	INTERLEAVED 20F5	4D	INDUSTRIAL 20F5
23	CODABAR	4E	AZTEC
24	CODE39	4F	UPC-E_COMP
25	PHARMAC39	50	UPC-A_COMP
26	MSI_PLESSEY	51	EAN8_COMP
27	CODE93	52	EAN13_COMP
28	GS1 DataBar_EXP_ID	53	EAN128_COMP
29	GS1 DataBar_14_ID		

# 付録A

## 技術仕様

以下の表に、物理およびパフォーマンス特性、ユーザー環境、および規定に関する情報を示します。

表40.技術仕様

項目	説明
<b>物理特性</b>	
色	黒
外形寸法	高さ53.4 mm 長さ78 mm 幅63.5 mm
位置調整	10,000サイクル
重量	約172 g
<b>電気特性</b>	
電圧および電流	アイドル/スタンバイ時（標準）： 5.0 V DCで98 mA 動作時a（標準）：5.0 V DCで160 mA 動作時b（最大）：5.0 V DCで215 mA 動作時c（ピーク）：5.0 V DCで335 mA 入力電圧（USB Vbus）：4.5 ~ 5.5 V DC
<b>パフォーマンス特性</b>	
光源（照射）	赤色LED（625 nm typ）
照準光源	クラス2のレーザー光
ロール（チルト）	基準位置から ± 180°
ピッチ角範囲	± 40°
スキュー（ヨー）	± 40°

- a. 積極的なスキャン中
- b. 正常なラベルの読み取り中（最大：100 msのキャプチャ）
- c. 正常なラベルの読み取り中（最大ピーク：100 msのキャプチャ）

項目	説明
エレメントの最少幅	4 mil (1D線形およびHD) 5 mil (PDF-417) 7 mil (DataMatrix)
最小印刷コントラスト	最小25%の反射率
照射領域	40° Hx26° V
<b>被写界深度 (通常) <sup>a</sup></b>	
読み取りコード	標準範囲 (SR)
Code 39	5 mil : 4.7 ~ 17.7 cm 10 mil : 1.7 ~ 33.2 cm 20 mil : 1.1 ~ 49.2 cm
EAN	13 mil : 2.5 ~ 41.9 cm 7.5 mil : 2.8 ~ 27.3 cm
PDF 417	6.6 mil : 3.3 ~ 15.4 cm 10 mil : 2.2 ~ 23.9 cm 15 mil : 2.5 ~ 35.6 cm
Data Matrix	10 mil : 2.7 ~ 17.1 cm 15 mil : 1.2 ~ 24.6 cm
QR Code	10 mil : 3.5 ~ 16.0 cm 15 mil : 0.5 ~ 24.6 cm

- a. EANに基づく13 milの被写界深度。他の1DコードはすべてCode 39の値です。  
すべてのラベルはグレードA、一般的な環境光下、20° C、ラベルの傾斜角度10° での値です。

表41.技術仕様

項目	説明
デコード可能コード	
<p><b>1Dバーコード</b></p> <p>UPC/EAN/JAN (A、E、13、8)、UPC/EAN/JAN (P2/P5を含む)、UPC/EAN/JAN (ISBN/BooklandおよびISSNを含む)、UPC/EAN Coupons、Code 39 (Full ASCIIを含む)、EAN 128 (GS1-128)、Code39 CIP (フランスの医薬品)、LOGMARS (Code 39および標準的なチェック デジットが有効)、Code 32 (イタリアのPharmacode 39)、Code 128、Code 128 ISBT、Interleaved 2 of 5、Standard 2 of 5、Interleaved 2 of 5 CIP (HR)、Industrial 2 of 5、Discrete 2 of 5、Datalogic 2 of 5 (中国の郵便コード/Chinese 2 of 5)、IATA 2 of 5航空貨物コード、Code 4、Code 5、Code 11、Codabar、ABC Codabar、Code 93、MSI、Plessey、Anker Plessey、Follet 2 of 5、BC412、GS1 DataBar Omnidirectional、GS1 DataBar Limited、GS1 DataBar Expanded、GS1 DataBar Truncated、DATABAR Expanded Coupon</p>	
<p><b>2D/スタック型コード</b></p> <p>このスキャナーでは、複数のフレームを使用して以下の読み取りコードのデコード (複数フレームのデコード) が可能です</p> <p>Datamatrix、Inverse Datamatrix、Datamatrixは、通常または反転、正方形または長方形スタイル、データの長さ (1~3600文字) の各パラメーターで設定できます</p> <p>Maxicode、各種QR Code (QR、Micro QR、およびMultiple QR Code)、Aztec、スウェーデンの郵便、ポルトガルの郵便、LaPoste A/R 39、4-State Canada、各種郵便コード、オーストラリアの郵便、日本の郵便、KIX郵便、Planet Code、Postnet、Royal Mail Code (RM45CC)、Intelligent Mail Barcode (IMB)、PDF-417、MacroPDF、Micro PDF417、GS1 Composite (1~12)、Codablock F、French CIP13<sup>a</sup>、GS1 DataBar Stacked、GS1 DataBar Stacked Omnidirectional、GS1 DataBar Expanded Stacked、GS1 Databar Composite、Chinese Sensible Code、反転された2Dコード<sup>b</sup></p>	

- a. ULEを使用して処理することが可能です
- b. ソフトウェアでは、Datamatrix、QR Code、Micro QR Code、Aztec Code、およびChinese Sensible Codeの各読み取りコードに通常または反転されたデコード制御を適用できます

項目	説明
サポートされているインターフェイス	USB Com Std.、USBキーボード、USB (使用できるインターフェイス オプションの一覧については、9ページの「インターフェイスの設定」を参照してください)
<b>ユーザー環境</b>	
動作温度	10 ~ 40° C
保管温度	-30 ~ 65° C
湿度	動作時 : 20 ~ 85% 非動作時 : 5 ~ 90%の相対湿度 (周囲に結露なし)
耐落下仕様	0.3メートルの高さからコンクリート面へ落下後、動作可能
外光耐性	最大100,000ルクス
汚染物、雨、ほこり、微粒子への耐性	IEC 529-IP32
ESDレベル	16 KV
<b>規定</b>	
レーザー安全基準	IEC Class 2

## LEDおよびビーブ音による通知

スキャナーのビーブ音およびLEDでは、スキャナーのさまざまな機能やエラーが表されます。また、オプションの緑色スポットも有効な機能です。下の表に、これらのインジケータの一覧を示します。ただし、スキャナーの機能はプログラム可能であり、インジケータのオン/オフを切り替えられることがあるため、表に示された動作に当てはまらない場合もあります。たとえば、電源投入ビーブ音のような特定のインジケータは、プログラミングバーコードラベルを使用しても無効にできません。

表42.LEDおよびビーブ音による通知

状態	説明	LED	ビーブ音
電源投入ビーブ音	スキャナーは電源投入処理中です		スキャナーの電源投入時に最高の周波数と音量でビーブ音が4回鳴ります
読み取り成功ビーブ音	ラベルがスキャナーで正常にスキャンされました	このインジケータのLEDの動作は、「読み取り成功：通知のタイミング」の機能によって設定できます	スキャナーでラベルのスキャンに成功すると、現在の周波数、音量、単音調または複音調設定、および持続時間で、ビーブ音が1回鳴ります
ROMエラー	スキャナーのソフトウェアまたはプログラミングにエラーがあります	点滅	最大の音量でエラーのビーブ音が1回鳴ります
スキャン中のラベルの読み取りが制限されている	USBインターフェイスが有効になっているときに、ホストへの接続が確立されていないことを知らせます	なし	最高の周波数および現在の音量で6回高く鳴ります
スキャナーがアクティブモード	スキャナーがアクティブになっていてスキャン可能な状態にあります	インジケータLEDが徐々に点灯します <sup>a</sup>	なし
スキャナーが無効	スキャナーがホストによって無効に設定されています	インジケータLEDが継続的に点滅します	なし
緑色スポットが一瞬点滅 <sup>b</sup>	ラベルの読み取りが成功すると、ソフトウェアによって設定値で指定された時間だけ緑色スポットがオンになります	なし	なし
イメージ キャプチャ	イメージをキャプチャしたとき	イメージのキャプチャ時にインジケータLEDが一度点滅し、より大きなイメージの転送中には複数回点滅します	なし
フラッシュメモリの更新	更新が進行しているときに通知されます	インジケータLEDが点滅します	なし

- 照射領域内で動きが検出されている間、または照射の持続時間タイマー（プログラム可能）がタイムアウトするまでインジケータLEDはオンになります
- 読み取り成功時の緑色スポットのLEDの持続時間はプログラム可能です。

表43.プログラミングモード

プログラミングモード：スキャナーがプログラミングモードになっている場合にのみ以下のインジケータによる通知が行われます。

状態	説明	LED	ビープ音
ラベルプログラミングモードでの入力	有効なプログラミングラベルがスキャンされました	インジケータLEDが継続的に点滅します	低い周波数でビープ音が4回鳴ります
ラベルプログラミングモードでのラベルの拒否	ラベルが拒否されました	なし	最低の周波数および現在の音量で3回鳴ります
スキャナーコンフィギュレーターモード	スキャナーは、サポートモードで設定変更の準備ができています	インジケータLEDが徐々に点灯します	
ラベルプログラミングモードでの部分的なラベルの受け入れ	1つの機能をプログラムするために複数のラベルをスキャンする必要がある場合に、各ラベルのスキャンが成功するごとにインジケータで通知されます	なし	最高の周波数と現在の音量で短いビープ音が1回鳴ります
ラベルプログラミングモードでのプログラミングの受け入れ	設定オプションがラベルを介して正しくプログラムされ、スキャナーでプログラミングモードが終了しました	なし	高い周波数のビープ音が1回、低い周波数のビープ音が4回鳴ってから、リセットのビープ音が鳴ります
ラベルプログラミングモードでのキャンセル項目の入力	[キャンセル]ラベルがスキャンされました	なし	低い周波数および現在の音量で2回鳴ります

## エラーコード

スキャナーの起動時に長い音が鳴る場合は、スキャナーの自動セルフテストが正常に完了しなかったためにFRU（Field Replaceable Unit）分離モードが開始されたことを示しています。スキャナーがリセットされると、一連の処理が繰り返されます。以下の表に、検出されたエラーに関連するLEDの点滅およびビープ音のコードを示します。

LEDの点滅/ ビープ音の回数	エラー	修正方法
1	構成	ヘルプデスクにお問い合わせください
2	インターフェイスPCB	
6	デジタルPCB	
11	イメージャー	



# 付録B

## 標準の初期設定

以下の表の「初期設定」欄には、最も一般的な設定の一覧が記載されています。パラメーターごとに機能説明およびプログラミング バーコードの参照ページへのリンクも用意されています。さらに、これらの設定可能な機能に対して、ユーザーのお好みの初期設定を記録するための欄が用意されています。

表44.標準の初期設定

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
<b>グローバル インターフェイス機能</b>			
ホスト コマンド : 従う/無視 -----	11	従う	
USBサスペンドモード -----	11	無効	
<b>USB-COM</b>			
文字間遅延 -----	14	遅延なし	
ASCII BELでのピープ音 -----	15	無効	
Not on Fileでのピープ音 -----	15	有効	
ACK/NAKのオプション -----	16	無効	
ACK文字 -----	17	「ACK」	
NAK文字 -----	17	「NAK」	
ACK/NAKのタイムアウト値 -----	18	200ミリ秒	
ACK/NAKの再試行回数 -----	18	3回の再試行	
ACK/NAKのエラー処理 -----	19	検出されたエラーを無視	
送信エラーの通知 -----	19	有効	
無効化文字 -----	20	「D」	
有効化文字 -----	20	「E」	
<b>USBキーボード</b>			
国モード -----	22	USキーボード	
制御文字の送信 -----	25	00	
コード間遅延 -----	26	00=遅延なし	

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
Caps Lockの状態-----	26	Caps Lockオフ	
USBキーボードの速度-----	27	1ミリ秒	
USBキーボードのテンキー-----	28	標準キー	
<b>データフォーマット</b>			
グローバルプレフィックス/サフィックス-----	30	グローバル プレフィックスなし グローバルサフィックス =0x0D (CR)	
グローバルAIM ID-----	30	無効	
GS1-128のAIM Idの個別設定-----	33	無効	
ラベルIDの制御-----	34	プレフィックス	
大文字/小文字変換-----	40	無効	
文字変換-----	40	文字変換なし	
<b>読み取り時のパラメーター</b>			
二重読み取りのタイムアウト-----	42	0.6秒	
電源投入時の警告-----	44	電源投入ビープ音	
読み取り成功：通知のタイミング-----	44	デコード後	
読み取り成功ビープ音の種類-----	45	単音調	
読み取り成功ビープ音の周波数-----	45	中	
読み取り成功ビープ音の長さ-----	46	80ミリ秒	
読み取り成功ビープ音の音量-----	47	大	
読み取り成功LEDの持続時間-----	48	300ミリ秒	
<b>スキャン機能</b>			
動作モード-----	49	自動 (オブジェクト検知)	
スキャン有効時間-----	49	5秒	
緑色スポットの持続時間-----	50	短 (300ミリ秒)	
携帯電話モード-----	50	有効	
モバイルバイアス-----	51	モバイルバイアスなし	
照射オフ時間-----	51	0ミリ秒	
照射オン時間-----	52	1秒	
プレゼンテーションモード用照射の制御-----	52	オフ	

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
照準ポインター -----	53	有効	
照準の持続時間タイマー -----	53	デコード後に照準オフ	
白黒反転イメージのデコード -----	54	無効	
<b>複数ラベルの読み取り</b>			
ボリューム内の複数ラベルの読み取り -----	55	無効	
フレームごとの複数ラベル -----	55	無効	
読み取りコードによる複数ラベルの順序付け --	56	ランダム	
コード長による複数ラベルの順序付け -----	56	無効	
<b>コードの選択：1D読み取りコード</b>			
<b>Code EAN/UPC</b>			
クーポンの制御 -----	59	UPCAクーポンのデコードのみを有効にする	
<b>UPC-A</b>			
UPC-Aの有効化/無効化 -----	60	有効	
UPC-Aのチェックキャラクタの送信 -----	60	送信する	
UPC-AをEAN-13に拡張 -----	61	拡張しない	
UPC-Aのナンバーシステムキャラクタの送信 -----	61	送信	
UPC-Aの2Dコンポーネント -----	62	2Dコンポーネントは不要	
<b>UPC-E</b>			
UPC-Eの有効化/無効化 -----	62	有効	
UPC-Eのチェックキャラクタの送信 -----	63	送信する	
UPC-Eの2Dコンポーネント -----	63	2Dコンポーネントは不要	
UPC-EをEAN-13に拡張 -----	64	拡張しない	
UPC-EをUPC-Aに拡張 -----	64	拡張しない	
UPC-Eのナンバーシステムキャラクタの送信 -----	65	送信	
<b>GTIN</b>			
GTINへのフォーマット変換 -----	65	無効	
<b>EAN 13 (JAN 13)</b>			
EAN 13の有効化/無効化 -----	66	有効	
EAN 13のチェックキャラクタの送信 -----	66	送信する	
EAN-13のフラグ1文字 -----	67	送信	

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
EAN 13からISBNへの変換-----	67	無効	
EAN-13の2Dコンポーネント-----	68	2Dコンポーネントは不要	
<b>ISSN</b>			
ISSNの有効化/無効化-----	68	無効	
<b>EAN 8</b>			
EAN 8の有効化/無効化-----	69	有効	
EAN 8のチェックキャラクタの送信-----	69	送信する	
EAN 8をEAN 13に拡張-----	70	無効	
EAN 8の2Dコンポーネント-----	70	2Dコンポーネントは不要	
<b>UPC/EANのグローバル設定</b>			
UPC/EANの価格とウェイトのチェック-----	71	無効	
UPC/EANのクワイエットゾーン-----	72	2モジュール	
<b>アドオン</b>			
オプションのアドオン-----	73	P2、P5、およびP8を 無効にする	
オプションのアドオンのタイマー-----	74	70ミリ秒	
オプションのGS1-128アドオンのタイマー-----	77	無効	
<b>Code 39</b>			
Code 39の有効化/無効化-----	80	有効	
Code 39のチェックキャラクタの計算-----	80	標準チェックを計算	
Code 39のチェックキャラクタの送信-----	81	送信する	
Code 39のスタート/ストップキャラクタの送信-----	82	送信しない	
Code 39 Full ASCII-----	82	無効	
Code 39のクワイエットゾーン-----	83	両側に小さな クワイエットゾーン	
Code 39の長さ制御-----	83	可変	
Code 39の長さ1の設定-----	84	2	
Code 39の長さ2の設定-----	85	50	
<b>Code 32 (イタリアの医薬品コード)</b>			
Code 32の有効化/無効化-----	86	無効	
Code 32のチェックキャラクタの送信-----	86	送信しない	

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
Code 32のスタート/ストップキャラクタの送信 -----	87	送信しない	
<b>Code39 CIP (フランスの医薬品コード)</b>			
Code 39 CIPの有効化/無効化 -----	87	無効	
<b>特殊なコード</b>			
Code 39 LaPosteの有効化/無効化 -----	88	無効	
<b>Code 128</b>			
Code 128の有効化/無効化 -----	88	有効	
Code 128をCode 39に拡張 -----	89	拡張しない	
Code 128のチェックキャラクタの送信 -----	89	送信しない	
Code 128のファンクション文字の送信 -----	90	送信しない	
Code 128のサブコード交換の送信 -----	90	無効	
Code 128のクワイエットゾーン -----	91	両側に小さな クワイエットゾーン	
Code 128の長さ制御 -----	91	可変	
Code 128の長さ1の設定 -----	92	1	
Code 128の長さ2の設定 -----	93	80	
<b>GS1-128</b>			
GS1-128の有効化 -----	94	Code 128データ フォーマットで送信	
GS1-128の2Dコンポーネント -----	94	無効	
<b>ISBT 128</b>			
ISBT 128の連結 -----	95	無効	
ISBT 128の強制連結 -----	95	無効	
ISBT 128の連結モード -----	96	静的	
ISBT 128の動的連結のタイムアウト -----	97	200ミリ秒	
<b>Interleaved 2 of 5</b>			
12 of 5の有効化/無効化 -----	98	無効	
12 of 5のチェックキャラクタの計算 -----	99	無効	
12 of 5のチェックキャラクタの送信 -----	100	送信する	
12 of 5の長さ制御 -----	100	可変	
12 of 5の長さ1の設定 -----	101	6	

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
12 of 5の長さ2の設定-----	102	50	
<b>Interleaved 2 of 5 CIP HR</b>			
<b>Follett 2 of 5</b>			
Follett 2 of 5の有効化/無効化-----	103	無効	
<b>Standard 2 of 5</b>			
Standard 2 of 5の有効化/無効化-----	104	無効	
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの計算-----	104	無効	
Standard 2 of 5のチェックキャラクタの送信-----	105	送信する	
Standard 2 of 5の長さ制御-----	105	可変	
Standard 2 of 5の長さ1の設定-----	106	8	
Standard 2 of 5の長さ2の設定-----	107	50	
<b>Industrial 2 of 5</b>			
Industrial 2 of 5の有効化/無効化-----	108	無効	
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの計算-----	108	無効	
Industrial 2 of 5のチェックキャラクタの送信-----	109	有効	
Industrial 2 of 5の長さ制御-----	109	可変	
Industrial 2 of 5の長さ1の設定-----	110	1	
Industrial 2 of 5の長さ2の設定-----	111	50	
<b>Code IATA</b>			
IATAの有効化/無効化-----	112	無効	
IATAのチェックキャラクタの送信-----	112	有効	
<b>Codabar</b>			
Codabarの有効化/無効化-----	113	無効	
Codabarのチェックキャラクタの計算-----	113	計算しない	
Codabarのチェックキャラクタの送信-----	114	送信する	
Codabarのスタート/ストップキャラクタの送信-----	114	送信	
Codabarのスタート/ストップキャラクタセット-----	115	abcd/abcd	
Codabarのスタート/ストップキャラクタの一致-----	115	一致の必要なし	
Codabarのクワイエットゾーン-----	116	両側に小さなクワイエットゾーン	
Codabarの長さ制御-----	116	可変	

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
Codabarの長さ1の設定 -----	117	3	
Codabarの長さ2の設定 -----	118	50	
ABC Codabar -----	119	無効	
<b>ABC Codabar</b>			
ABC Codabarの有効化/無効化 -----	119	無効	
ABC Codabarの連結モード -----	119	静的	
ABC Codabarの動的連結のタイムアウト	120	200ミリ秒	
ABC Codabarの強制連結 -----	121	無効	
<b>Code 11</b>			
Code 11の有効化/無効化 -----	122	無効	
Code 11のチェックキャラクタの計算 -----	122	CおよびKをチェック	
Code 11のチェックキャラクタの送信 -----	123	送信する	
Code 11の長さ制御 -----	123	可変	
Code 11の長さ1の設定 -----	124	4	
Code 11の長さ2の設定 -----	125	50	
<b>GS1 DataBar Omnidirectional</b>			
GS1 DataBar Omnidirectionalの有効化/無効化 -----	126	有効	
GS1 DataBar OmnidirectionalのGS1-128エミュレーション 126		無効	
GS1 DataBar Omnidirectionalの2Dコンポーネント -----	127	2Dコンポーネントは不要	
<b>GS1 DataBar Expanded</b>			
GS1 DataBar Expandedの有効化/無効化 -----	127	有効	
GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション -----	128	無効	
GS1 DataBar Expandedの2Dコンポーネント -----	128	2Dコンポーネントは不要	
GS1 DataBar Expandedの長さ制御 -----	129	可変	
GS1 DataBar Expandedの長さ1の設定 -----	130	1	
GS1 DataBar Expandedの長さ2の設定 -----	131	74	
<b>GS1 DataBar Limited</b>			
GS1 DataBar Limitedの有効化/無効化 -----	132	無効	
GS1 DataBar ExpandedのGS1-128エミュレーション -----	132	無効	
GS1 DataBar Limitedの2Dコンポーネント -----	133	2Dコンポーネントは不要	

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
<b>Code 93</b>			
Code 93の有効化/無効化 -----	133	有効	
Code 93のチェックキャラクタの計算 -----	134	CおよびKのチェックを有効にする	
Code 93のチェックキャラクタの送信 -----	134	有効	
Code 93の長さ制御 -----	135	可変	
Code 93の長さ1の設定 -----	136	1	
Code 93の長さ2の設定 -----	137	50	
Code 93のクワイエットゾーン -----	138	両側に小さなクワイエットゾーン	
<b>MSI</b>			
MSIの有効化/無効化 -----	138	無効	
MSIのチェックキャラクタの計算 -----	139	Mod10を有効にする	
MSIのチェックキャラクタの送信 -----	139	有効	
MSIの長さ制御 -----	140	可変	
MSIの長さ1の設定 -----	141	1	
MSIの長さ2の設定 -----	142	50	
<b>Plessey</b>			
Plesseyの有効化/無効化 -----	143	無効	
Plesseyのチェックキャラクタの計算 -----	143	Plessey標準チェックキャラクタの検証を有効にする	
Plesseyのチェックキャラクタの送信 -----	144	有効	
Plesseyの長さ制御 -----	144	可変	
Plesseyの長さ1の設定 -----	145	1	
Plesseyの長さ2の設定 -----	146	50	
<b>コードの選択：2D読み取りコード</b>			
2Dの最大デコード時間 -----	148	350ミリ秒	
2Dの構造的接続 -----	149	無効	
2Dの通常/反転読み取りコード制御 -----	149	標準	
Aztec Codeの有効化/無効化 -----	150	無効	
Aztec Codeの長さ制御 -----	150	有効	
Aztec Codeの長さ制御 -----	150	可変	



パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
Aztec Codeの長さ1の設定 -----	151	1	
China Sensible Codeの有効化/無効化 -----	153	無効	
China Sensible Codeの長さ制御 -----	153	可変	
China Sensible Codeの長さ1の設定 -----	154	1	
China Sensible Codeの長さ2の設定 -----	155	7,827	
Data Matrixの有効化/無効化 -----	156	有効	
Data Matrixの正方形/長方形スタイル -----	156	正方形スタイルと 長方形スタイルの両方	
Data Matrixの長さ制御 -----	157	可変	
Data Matrixの長さ1の設定 -----	157	1	
Data Matrixの長さ2の設定 -----	158	3,116	
Maxicodeの有効化/無効化 -----	159	無効	
Maxicodeのプライマリ メッセージの送信 -----	159	無効	
Maxicodeの長さ制御 -----	160	可変	
Maxicodeの長さ1の設定 -----	160	1	
Maxicodeの長さ2の設定 -----	161	0145	
PDF417の有効化/無効化 -----	162	有効	
PDF417の長さ制御 -----	162	可変	
PDF417の長さ1の設定 -----	163	1	
PDF417の長さ2の設定 -----	164	2,710	
Micro PDF417の有効化/無効化 -----	165	無効	
Micro PDF417のCode 128/GS1-128エミュレーション -----	165	Micro PDFのAIM IDおよび ラベルの種類	
Micro PDF417の長さ制御 -----	166	可変	
Micro PDF417の長さ1の設定 -----	166	1	
Micro PDF417の長さ2の設定 -----	167	0366	
QR Codeの有効化/無効化 -----	168	有効	
QR Codeの長さ制御 -----	168	可変	
QR Codeの長さ1の設定 -----	169	1	
QR Codeの長さ2の設定 -----	170	7,089	
Micro QR Codeの有効化/無効化 -----	171	無効	

パラメーター	ページ	初期設定	ユーザーの設定
Micro QR Codeの長さ制御-----	171	可変	
Micro QR Codeの長さ1の設定-----	172	0001	
Micro QR Codeの長さ2の設定-----	173	0035	
UCC Compositeの有効化/無効化-----	174	無効	
UCCオプション コンポジット タイマー -----	175	タイマーが無効	
郵便コードの選択-----	176	すべての郵便コードの 無効化	
PostnetのBB制御-----	177	無効	

# 付録C

## サンプルバーコード

この付録に記載されているサンプルバーコードは、その読み取りコードの種類の一般的な表現です。

### 1Dバーコード

UPC-A



EAN-13



Code 39



Code 128



Interleaved 2 of 5



---

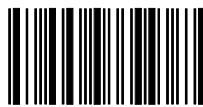
## サンプルバーコード（続き）

Code 32



B9P91Q

Codabar



13579

Code 93



ABCDEF

Code 11



123456789

---

## GS1 DataBar (RSS)



下記のバーコードを読み取るには、GS1 DataBarのバリエーションを有効にする必要があります (126ページの「GS1 DataBar Omnidirectional」を参照してください)。

GS1 DataBar Expanded Stacked



10293847560192837465019283746029478450366523

GS1 DataBar Expanded



1234890hja9900mnb

GS1 DataBar Limited



08672345650916

## GS1 DataBar-14

GS1 DataBar Omnidirectional Truncated



55432198673467

GS1 DataBar Omnidirectional Stacked



90876523412674

GS1 DataBar Omnidirectional Stacked



78123465709811

# 2Dバーコード

Aztec



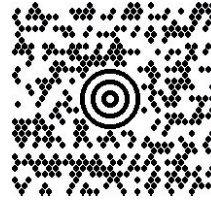
Datamatrix



China Sensible Code



MaxiCode



PDF 417



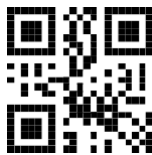
ABCabc

Micro PDF 417



BV17453

QR Code



35900G9

Micro QRコード



123456

UCC Composite

(17) 050923 (10) ABC123



(01) 0 4012345 67890 1 1

# 付録D

## テンキー

この付録に記載されているバーコードを使用すると、テンキーから数字や文字を選択するように数値を入力できます。



0



1



2



3



4



5



6



7



8



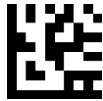
9



A



B



C



D



E



F



# 付録E

## スキャンコード表

### 制御文字エミュレーション

制御文字エミュレーションは、この付録に記載されている各種スキャンコード表から選択します。それらの表には、インターフェイスの種類別に、以下の各制御文字セットが詳しく記述されています。これらの制御文字セットは、USBキーボードのプラットフォームに適用されます。

**制御文字00** : 00 ~ 0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + キーとして送信され、特殊キーは0x80 ~ 0xA1に配置されます。

**制御文字01** : 00 ~ 0x1Fの文字は制御文字[Ctrl] + 大文字キーとして送信され、特殊キーは0x80 ~ 0xA1に配置されます。

**制御文字02** : 特殊キーは00 ~ 0x1Fに配置され、0x80 ~ 0xFEの文字は拡張ASCII表（230ページの「Microsoft® Windows®コードページ1252」を参照してください）に従って送信されるよう意図されています。

### 1回押して放すキー

以下の各表では、「Ar ↓」は右の[Alt]キーが押されたことを意味し、「Ar ↑」は右の[Alt]キーが放されたことを意味します（他のキーも同様）。その他のキーの定義は、「Al」（左の[Alt]）、「Cr」（右の[Ctrl]）、「Cl」（左の[Ctrl]）、「Sh」（[Shift]）となります。この方法を使用すると、[Alt]、[Ctrl]、または[Shift]を他のキーと組み合わせることができます。

例：制御文字が00に設定されているものとします。ラベルをホストに送信する前に右[Alt] + [A]が必要な場合、この手法を用いるには、0x99 0x41 0x9Aのように3つのプレフィックスキーを設定します。

# インターフェイスの種類：USBキーボード

表45.制御文字が00または01のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	NULL C+@	SOH C(S)+A	STX C(S)+B	ETX C(S)+C	EOT C(S)+D	ENQ C(S)+E	ACK C(S)+F	BEL C(S)+G	BS HT TAB	LF C(S)+J	VT C(S)+K	FF C(S)+L	CR Enter	SO C(S)+N	SI C(S)+O	
1x	DLE C(S)+P	DC1 C(S)+Q	DC2 C(S)+R	DC3 C(S)+S	DC4 C(S)+T	NAK C(S)+U	SYN C(S)+V	ETB C(S)+W	CAN C(S)+X	EM C(S)+Y	SUB C(S)+Z	ESC Esc	FS C+\	GS C+]	RS C+^	US C(S)+_
2x	<u>SP</u>	<u>!</u>	<u>"</u>	<u>#</u>	<u>\$</u>	<u>%</u>	<u>&amp;</u>	<u>:</u>	<u>(</u>	<u>)</u>	<u>*</u>	<u>+</u>	<u>,</u>	<u>=</u>	<u>.</u>	<u>/</u>
3x	<u>0</u>	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>7</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	<u>:</u>	<u>:</u>	<u>≤</u>	<u>≡</u>	<u>≥</u>	<u>?</u>
4x	<u>@</u>	<u>A</u>	<u>B</u>	<u>C</u>	<u>D</u>	<u>E</u>	<u>F</u>	<u>G</u>	<u>H</u>	<u>I</u>	<u>J</u>	<u>K</u>	<u>L</u>	<u>M</u>	<u>N</u>	<u>O</u>
5x	<u>P</u>	<u>Q</u>	<u>R</u>	<u>S</u>	<u>T</u>	<u>U</u>	<u>V</u>	<u>W</u>	<u>X</u>	<u>Y</u>	<u>Z</u>	<u>[</u>	<u>\</u>	<u>]</u>	<u>^</u>	<u>_</u>
6x	<u>`</u>	<u>a</u>	<u>b</u>	<u>c</u>	<u>d</u>	<u>e</u>	<u>f</u>	<u>g</u>	<u>h</u>	<u>i</u>	<u>j</u>	<u>k</u>	<u>l</u>	<u>m</u>	<u>n</u>	<u>o</u>
7x	<u>p</u>	<u>q</u>	<u>r</u>	<u>s</u>	<u>t</u>	<u>u</u>	<u>v</u>	<u>w</u>	<u>x</u>	<u>y</u>	<u>z</u>	<u>{</u>	<u> </u>	<u>}</u>	<u>~</u>	<i>Del</i>
8x	€	Sh ↓	Sh ↑	Ins	Ent (keyp)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
9x	F12	Home	End	Pg Up	Pg Dwn	↑	↓	←	→	Ar ↓	Ar ↑	Al ↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓
Ax	Cr ↑		'	f	,	...	†	‡	^	%	Š	‹	Ś	›	Œ	
Bx	°	±	²	³	´	µ	¶	·	,	¹	º	»	¼	½	¾	¿
Cx	À	Á	Â	Ã	Ä	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ë	Ì	Í	Î	Ï
Dx	Ð		Ò	Ó	Ô	Õ	Ö	×	Ø	Ù	Ú	Û	Ü	Ý	Þ	ß
Ex	à	á	â	ã	ä	å	æ	ç	è	é	ê	ë	ì	í	î	ï
Fx	ð	ñ	ò	ó	ô	õ	ö	÷	ø	ù	ú	û	ü	ý	þ	ÿ

拡張文字（空色）は、専用のキー（選択した国モードで使用可能な場合）によって、またはALTモードシーケンスを使用して送信されます。

## インターフェイスの種類：USBキーボード（続き）

表46.制御文字が02のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	Ar ↓	Ar ↑	Al ↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓	Cr ↑	BS	Tab	→	S+ Tab	Enter Keyprd	Enter	Ins	Pg Up
1x	Pg Dwn	Home	←	↓	↑	F6	F1	F2	F3	F4	F5	ESC	F7	F8	F9	F10
2x	Space	!	“	#	\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
3x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
4x	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
5x	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[	\	]	^	_
6x	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
7x	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	Del
8x	€		'	f	„	…	†	‡	^	%	Š	<	Ś	<	Œ	
9x		'	,	“	”	•	-	—	~	™	š	>	œ		ž	ÿ
Ax	NBSP	ı	¢	£	¤	¥	¦	§	¨	©	ª	«	¬	-	®	-
Bx	°	±	²	³	´	µ	¶	·	,	¹	º	»	¼	½	¾	¿
Cx	À	Á	Â	Ã	Ä	Å	Æ	Ç	È	É	Ê	Ë	Ì	Í	Î	Ï
Dx	Ð		Ò	Ó	Ô	Õ	Ö	×	Ø	Ù	Ú	Û	Ü	Ý	Þ	ß
Ex	à	á	â	ã	ä	å	æ	ç	è	é	ê	ë	ì	í	î	ï
Fx	ð	ñ	ò	ó	ô	õ	ö	÷	ø	ù	ú	û	ü	ý	þ	ÿ

# インターフェイスの種類：USB標準キーボード（ALTモード）

表47.制御文字が00または01のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	Xf
0x	Alt+000	Alt+001	Alt+002	Alt+003	Alt+004	Alt+005	Alt+006	Alt+007	BS HT TAB		Alt+010	Alt+011	Alt+012	CR Enter	Alt+014	Alt+015
1x	Alt+016	Alt+017	Alt+018	Alt+019	Alt+020	Alt+021	Alt+022	Alt+023	Alt+024	Alt+025	Alt+026	ESC Esc	Alt+028	Alt+029	Alt+030	Alt+031
2x	A+032	A+033	A+034	A+035	A+036	A+037	A+038	A+039	A+040	A+041	A+042	A+043	A+044	A+045	A+046	A+047
3x	A+048	A+049	A+050	A+051	A+052	A+053	A+054	A+055	A+056	A+057	A+058	A+059	A+060	A+061	A+062	A+063
4x	A+064	A+065	A+066	A+067	A+068	A+069	A+070	A+071	A+072	A+073	A+074	A+075	A+076	A+077	A+078	A+079
5x	A+080	A+081	A+082	A+083	A+084	A+085	A+086	A+087	A+088	A+089	A+090	A+091	A+092	A+093	A+094	A+095
6x	A+096	A+097	A+098	A+099	A+100	A+101	A+102	A+103	A+104	A+105	A+106	A+107	A+108	A+109	A+110	A+111
7x	A+112	A+113	A+114	A+115	A+116	A+117	A+118	A+119	A+120	A+121	A+122	A+123	A+124	A+125	A+126	A+127
8x	€	Sh ↓	Sh ↑	Ins	Ent (keyp)	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11
9x	F12	Home	End	Pg Up	Pg Dwn	↑	↓	←	→	Ar ↓	Ar ↑	Al ↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓
Ax	Cr ↑	A+0161	A+0162	A+0163	A+0164	A+0165	A+0166	A+0167	A+0168	A+0169	A+0170	A+0171	A+0172	A+0173	A+0174	A+0175
Bx	A+0176	A+0177	A+0178	A+0179	A+0180	A+0181	A+0182	A+0183	A+0184	A+0185	A+0186	A+0187	A+0188	A+0189	A+0190	A+0191
Cx	A+0192	A+0193	A+0194	A+0195	A+0196	A+0197	A+0198	A+0199	A+0200	A+0201	A+0202	A+0203	A+0204	A+0205	A+0206	A+0207
Dx	A+0208	A+0209	A+0210	A+0211	A+0212	A+0213	A+0214	A+0215	A+0216	A+0217	A+0218	A+0219	A+0220	A+0221	A+0222	A+0223
Ex	A+0224	A+0225	A+0226	A+0227	A+0228	A+0229	A+0230	A+0231	A+0232	A+0233	A+0234	A+0235	A+0236	A+0237	A+0238	A+0239
Fx	A+0240	A+0241	A+0242	A+0243	A+0244	A+0245	A+0246	A+0247	A+0248	A+0249	A+0250	A+0251	A+0252	A+0253	A+0254	A+0255

## インターフェイスの種類：USB標準キーボード（ALTモード）（続き）

表48.制御文字が02のときのスキャンコードセット

	x0	x1	x2	x3	x4	x5	x6	x7	x8	x9	xA	xB	xC	xD	xE	xF
0x	Ar ↓	Ar ↑	Al ↓	Al ↑	Cl ↓	Cl ↑	Cr ↓	Cr ↑	BS	Tab	→	S+ Tab	Enter Keypd	Enter	Ins	Pg Up
1x	Pg Dwn	Home	←	↓	↑	F6	F1	F2	F3	F4	F5	ESC	F7	F8	F9	F10
2x	A+032	A+033	A+034	A+035	A+036	A+037	A+038	A+039	A+040	A+041	A+042	A+043	A+044	A+045	A+046	A+047
3x	A+048	A+049	A+050	A+051	A+052	A+053	A+054	A+055	A+056	A+057	A+058	A+059	A+060	A+061	A+062	A+063
4x	A+064	A+065	A+066	A+067	A+068	A+069	A+070	A+071	A+072	A+073	A+074	A+075	A+076	A+077	A+078	A+079
5x	A+080	A+081	A+082	A+083	A+084	A+085	A+086	A+087	A+088	A+089	A+090	A+091	A+092	A+093	A+094	A+095
6x	A+096	A+097	A+098	A+099	A+100	A+101	A+102	A+103	A+104	A+105	A+106	A+107	A+108	A+109	A+110	A+111
7x	A+112	A+113	A+114	A+115	A+116	A+117	A+118	A+119	A+120	A+121	A+122	A+123	A+124	A+125	A+126	A+127
8x	A+0128	A+0129	A+0130	A+0131	A+0132	A+0133	A+0134	A+0135	A+0136	A+0137	A+0138	A+0139	A+0140	A+0141	A+0142	A+0143
9x	A+0144	A+0145	A+0146	A+0147	A+0148	A+0149	A+0150	A+0151	A+0152	A+0153	A+0154	A+0155	A+0156	A+0157	A+0158	A+0159
Ax	A+0160	A+0161	A+0162	A+0163	A+0164	A+0165	A+0166	A+0167	A+0168	A+0169	A+0170	A+0171	A+0172	A+0173	A+0174	A+0175
Bx	A+0176	A+0177	A+0178	A+0179	A+0180	A+0181	A+0182	A+0183	A+0184	A+0185	A+0186	A+0187	A+0188	A+0189	A+0190	A+0191
Cx	A+0192	A+0193	A+0194	A+0195	A+0196	A+0197	A+0198	A+0199	A+0200	A+0201	A+0202	A+0203	A+0204	A+0205	A+0206	A+0207
Dx	A+0208	A+0209	A+0210	A+0211	A+0212	A+0213	A+0214	A+0215	A+0216	A+0217	A+0218	A+0219	A+0220	A+0221	A+0222	A+0223
Ex	A+0224	A+0225	A+0226	A+0227	A+0228	A+0229	A+0230	A+0231	A+0232	A+0233	A+0234	A+0235	A+0236	A+0237	A+0238	A+0239
Fx	A+0240	A+0241	A+0242	A+0243	A+0244	A+0245	A+0246	A+0247	A+0248	A+0249	A+0250	A+0251	A+0252	A+0253	A+0254	A+0255

# Microsoft® Windows®コードページ1252

Windows-1252とは、Microsoft Windowsの英語版および他の数種の西欧言語版において従来のコンポーネントが初期設定で使用するラテン文字の文字コードです。

	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F
00	<u>NUL</u> 0000	<u>STX</u> 0001	<u>SOT</u> 0002	<u>ETX</u> 0003	<u>EOT</u> 0004	<u>ENQ</u> 0005	<u>ACK</u> 0006	<u>BEL</u> 0007	<u>BS</u> 0008	<u>HT</u> 0009	<u>LF</u> 000A	<u>VT</u> 000B	<u>FF</u> 000C	<u>CR</u> 000D	<u>SO</u> 000E	<u>SI</u> 000F
10	<u>DLE</u> 0010	<u>DC1</u> 0011	<u>DC2</u> 0012	<u>DC3</u> 0013	<u>DC4</u> 0014	<u>NAK</u> 0015	<u>SYN</u> 0016	<u>ETB</u> 0017	<u>CAN</u> 0018	<u>EM</u> 0019	<u>SUB</u> 001A	<u>ESC</u> 001B	<u>FS</u> 001C	<u>GS</u> 001D	<u>RS</u> 001E	<u>US</u> 001F
20	<u>SP</u> 0020	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	+	,	-	.	/
30	0 0030	1 0031	2 0032	3 0033	4 0034	5 0035	6 0036	7 0037	8 0038	9 0039	:	;	<	=	>	?
40	@ 0040	A 0041	B 0042	C 0043	D 0044	E 0045	F 0046	G 0047	H 0048	I 0049	J 004A	K 004B	L 004C	M 004D	N 004E	O 004F
50	P 0050	Q 0051	R 0052	S 0053	T 0054	U 0055	V 0056	W 0057	X 0058	Y 0059	Z 005A	[ 005B	\ 005C	] 005D	^ 005E	_ 005F
60	` 0060	a 0061	b 0062	c 0063	d 0064	e 0065	f 0066	g 0067	h 0068	i 0069	j 006A	k 006B	l 006C	m 006D	n 006E	o 006F
70	p 0070	q 0071	r 0072	s 0073	t 0074	u 0075	v 0076	w 0077	x 0078	y 0079	z 007A	{ 007B	 007C	} 007D	~ 007E	<u>DEL</u> 007F
80	€ 20AC	⋯	ƒ 201A	„ 0192	… 201E	† 2026	‡ 2020	ˆ 2021	‰ 02C6	Š 2030	< 2039	Œ 0152	⋯	Ž 017D	⋯	⋯
90	⋯	˘ 2018	ƒ 2019	“ 201C	” 201D	• 2022	— 2013	— 2014	˜ 02DC	™ 2122	Š 0161	> 203A	œ 0153	⋯	ž 017E	ÿ 0178
A0	<u>NBSP</u> 00A0	ı 00A1	ı̇ 00A2	£ 00A3	¤ 00A4	¥ 00A5	ı̈ 00A6	Š 00A7	ˆ 00A8	© 00A9	ª 00AA	« 00AB	¬ 00AC	— 00AD	® 00AE	— 00AF
B0	° 00B0	± 00B1	² 00B2	³ 00B3	´ 00B4	µ 00B5	¶ 00B6	· 00B7	¸ 00B8	¹ 00B9	º 00BA	» 00BB	¼ 00BC	½ 00BD	¾ 00BE	¿ 00BF
C0	À 00C0	Á 00C1	Â 00C2	Ã 00C3	Ä 00C4	Å 00C5	Æ 00C6	Ç 00C7	È 00C8	É 00C9	Ê 00CA	Ë 00CB	Ì 00CC	Í 00CD	Î 00CE	Ï 00CF
D0	Ð 00D0	Ñ 00D1	Ò 00D2	Ó 00D3	Ô 00D4	Õ 00D5	Ö 00D6	× 00D7	Ø 00D8	Ù 00D9	Ú 00DA	Û 00DB	Ü 00DC	Ý 00DD	Þ 00DE	ß 00DF
E0	à 00E0	á 00E1	â 00E2	ã 00E3	ä 00E4	å 00E5	æ 00E6	ç 00E7	è 00E8	é 00E9	ê 00EA	ë 00EB	ì 00EC	í 00ED	î 00EE	ï 00EF
F0	ø 00F0	ñ 00F1	ò 00F2	ó 00F3	ô 00F4	õ 00F5	ö 00F6	÷ 00F7	ø 00F8	ù 00F9	ú 00FA	û 00FB	ü 00FC	ý 00FD	þ 00FE	ÿ 00FF

# 付録F

## クイックセットアップ

この付録のバーコードを使用すると、共通の作業用のセットアップ手順をすばやく実行できます。以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーの設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。



カスタム初期設定へのリセット



カスタム初期設定にリセットするバーコードをスキャンしても、インターフェイスの種類は変更されません。

HP RPOSインテグレートド スキャナーを初期設定のモードに戻すには、以下のバーコード ([USB HIDキーボード エミュレーション]) をスキャンします。



USB HIDキーボード エミュレーション

スキャナーをHIDモードとUSB-COMモードの間で切り替えた場合は、Windowsオペレーティングシステムによってスキャナーのネイティブ ドライバーが再ロードされるまで少しお待ちください。

## OPOSドライバー

HP RPOSインテグレートド スキャナーは、工場出荷時の初期設定ではヒューマン インターフェイス デバイス (HID) キーボード エミュレーション モードになっています。このバーコード スキャナーをOPOS (OLE for Retail POS) ドライバーで使用するには、スキャナーをUSB COM (OPOS) モードにする必要があります。

HP RPOSインテグレートド スキャナーをUSB COM (OPOS) モードまたはHIDキーボード エミュレーション モードに切り替えるバーコードは、すぐに使用できるようにこのガイドに記載されています。

HP RPOSインテグレートド スキャナーをOPOSドライバーで使用するモードにするには、以下のバーコード ([USB COM (OPOS)]) をスキャンします。



USB COM (OPOS)

---

# キャリッジリターン

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーの設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。



カスタム初期設定へのリセット



カスタム初期設定にリセットするバーコードをスキャンしても、インターフェイスの種類は変更されません。

スキャンされた各バーコードの後にキャリッジ リターン/[Enter]が必要な場合は、以下の手順でバーコードをスキャンします。



プログラミングモードの開始

以下のバーコードを左から右にスキャン



グローバルサフィックスの設定



0



D



グローバルサフィックスモードの終了



プログラミングモードの終了



## Tab

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーの設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。



カスタム初期設定へのリセット



カスタム初期設定にリセットするバーコードをスキャンしても、インターフェイスの種類は変更されません。

スキャンされた各バーコードの後にタブが必要な場合は、以下の順序でバーコードをスキャンします。



プログラミングモードの開始

以下のバーコードを左から右にスキャン



グローバルサフィックスの設定



0



9



グローバルサフィックス  
モードの終了



プログラミングモードの終了

## 音量

以下のバーコードをスキャンすると、スキャナーの設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。



カスタム初期設定へのリセット



カスタム初期設定にリセットするバーコードをスキャンしても、インターフェイスの種類は変更されません。

HP RPOSインテグレートド スキャナーの読み取り成功ビープ音の音量を設定するには、以下のバーコードをスキャンします。



プログラミングモードの開始

以下の4つのバーコードのどれかをスキャンして、音量を適切なレベルに設定します。



オフ



小



中



大



プログラミングモードの終了

# ASCII表

ASCII文字	16進数	ASCII文字	16進数	ASCII文字	16進数	ASCII文字	16進数
NUL	00	SP	20	@	40	'	60
SOH	01	!	21	A	41	a	61
STX	02	“	22	B	42	b	62
ETX	03	#	23	C	43	c	63
EOT	04	\$	24	D	44	d	64
ENQ	05	%	25	E	45	e	65
ACK	06	&	26	F	46	f	66
BEL	07	'	27	G	47	g	67
BS	08	(	28	H	48	h	68
HT	09	)	29	I	49	i	69
LF	0A	*	2A	J	4A	j	6A
VT	0B	+	2B	K	4B	k	6B
FF	0C	,	2C	L	4C	l	6C
CR	0D	-	2D	M	4D	m	6D
SO	0E	.	2E	N	4E	n	6E
SI	0F	/	2F	O	4F	o	6F
DLE	10	0	30	P	50	p	70
DC1	11	1	31	Q	51	q	71
DC2	12	2	32	R	52	r	72
DC3	13	3	33	S	53	s	73
DC4	14	4	34	T	54	t	74
NAK	15	5	35	U	55	u	75
SYN	16	6	36	V	56	v	76
ETB	17	7	37	W	57	w	77
CAN	18	8	38	X	58	x	78
EM	19	9	39	Y	59	y	79
SUB	1A	:	3A	Z	5A	z	7A
ESC	1B	;	3B	[	5B	{	7B
FS	1C	<	3C	\	5C		7C
GS	1D	=	3D	]	5D	}	7D
RS	1E	>	3E	^	5E	~	7E
US	1F	?	3F	_	5F	DEL	7F

メモ